

婦人子



第七卷

第四號

香

婦人と子ども第七卷第四號目次

卷首……………總領むすこ……………

本誌の本領……………一……………

嫁と姑……………宮川壽美……………二……………

將來の家事教科……………若林幾造……………四……………

家庭に於ける諸儀式……………後閑菊野……………七……………

米國東方の幼稚園……………甲賀藤子……………二……………

家庭保姆の選擇……………中村五六……………六……………

ふはなし……………筑紫の媼……………二〇……………

「火無し庵」の實驗……………本郷生……………二二……………

ナポレオンの母……………孤蓬生……………三六……………

温泉に就きて……………新免義男……………三三……………

自然界と保育……………畔柳銀子……………三四……………

割煮……………石井泰次郎……………三三……………

婦人と親族法……………太田英隆……………三六……………

四つ身被布……………岡本ちか子……………四四……………

お加お加パンを粗末にはいけません 硯山人……………四三……………

不思議なふみやげ……………とよ子……………四四……………

雑録……………四九……………

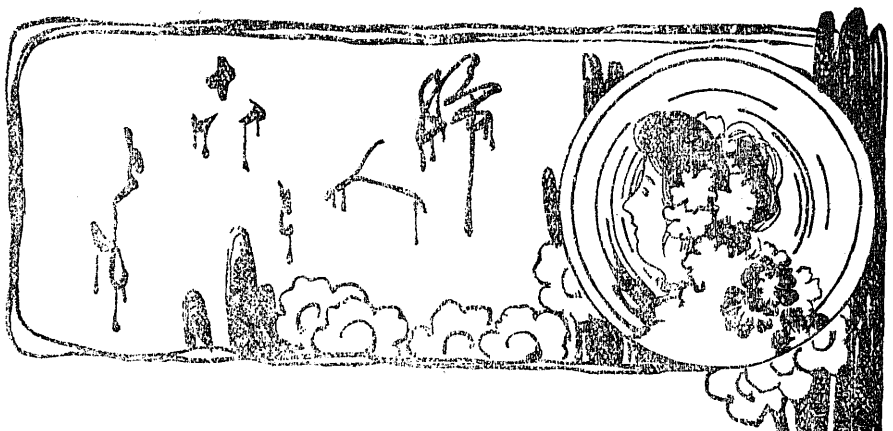
編輯記事……………五一……………



(著名西泰)

領

總



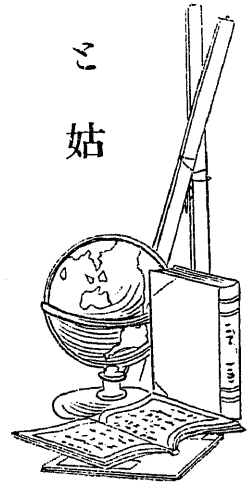
本誌の領

第七卷第四號

家庭の經營は六敷しいもの、理想の家庭はなか／＼實現しがたいものでありますが、併し現在の家庭は國家の爲めに益改良し行かねばならず、如何にせば最も完全な家庭を得可きかと云ふことは社界の進歩と共に益研究し行かねばなりません。そこで家庭研究と云ふことが頗る趣味ある難問題となる次第であります。

本誌は此必要に應じて着實な思想と穩健な主張とを以て眞正な家庭生活の意義を明にし、世の家庭教育、女子教育に向つて、適切な科學的解決を試み様と努めて居るのであります。殊に家庭教育、幼兒教育に就ては他に斯界の指導となる可き程のものがありませんから、本誌は進んで本邦に於ける幼兒教育界の木折たらんことを私に期して居る次第であります。

嫁
ご
姑



宮川 壽美子

御承知の通り英國其他の外國では新夫婦は必ず別居するのが當り前でありますから若夫婦は自分勝手な新しい家庭に好き自由な眞似をして、極めてのん氣に面白く暮して居りますで未だ嘗つて嫁と姑との間の關係に就ていさくさの起つたこともないし起る筈もないのであります、我國では之と反對で老夫婦も新夫婦も家と云ふものからは何うしても離れることの出来ないものとなつて居て、新しい夫婦は父母の傍に於て古き家庭の中で新しい生活をしなければならぬので自然若いもの等自身にも面白くない、老人の目には勿論面白くない

くて、遂には兩者の間に種々意志の疏通を欠き、行き違ひを來し、ひがみねたみの結果は家庭の風波となる事が多くあります、是は果して如何に結着したらばよいものでありませうか、外國流にするのが適當でせうか、日本流にするのが宜いでせうか、一概には何うも決し兼ねる問題であります、急進家とも云はれるハイカラな人に云はせると、無論別居制度を好みませうが、併し國体を重じ歴史を考へて我國の長所を益世界に發輝して行かうとするには何うしても此家族制度は或程度迄は守らねばならぬ様で、今俄かに何れとも決する譯には參りませぬ。

此問題が今日では頗る陳腐な問題であるにも係らず常に新しき研究の絶えないのは多分此邊の考へに決し兼ねる所であるからではありませうか。

英國人などは(婦人でも)皆斯う云ふて居るのです我々は天より稟けたる自由の權を持つて此世に生活するもので是を發輝するのは取りもなほさず吾

人人類の天職である、故に假令親兄弟なりとも我等の此自由を妨ぐることは出来ない筈である、新家庭は新夫婦の天下で此處は老人の跋扈す可き所ではない、故に新夫婦は老人等の干渉を受く可き謂れがない、若し萬一、斯様な非理を働くものがあるならば充分之に抵抗しなければならぬ、何となれば吾々はクリシチャンであるからと云ふて居るのです、私が彼地に參つて居る間の事でしたが某夫人が私に向ふて問ふて云ふには、貴女の國では嫁と姑と同じ家の中に暮して居なければならぬと云ふた、ををして若し衝突などがあつたとしても嫁は、姑に従はなければならぬものとしてあるををだが、若し貴女が歸國なされてから御縁付なさる様になつた時に此姑嫁同居問題及衝突問題が起つたならば何うなさるかと申しましたから私は次の様に答へました。

「私にも若しも左様な時が參ると致しましたらば私は矢張日本の歴史習慣に背かないで姑と同居

致します、そして姑と充分能く折り合つて行くことの出来る様衝突を避けて參る積りで、假令又萬一にも姑が一通りの人でなく特に邪見な人であるとしても私は神の御助けを以て之を私の方に引付ける様滿身の力を振ふ可きが日本に住んで居るクリスチャンの採る可き道であると存じます」と申しましたら「然様かしら」と云つて頻りに考へて居る様でした、何にせよ彼方の人には我國の様な家族制度は餘程解し兼ねて居る様であります。

私も彼地に參ります前は何となく我國の家族制度に嫌たらないで、西洋の個人主義を此の上ない様にも思ひましたが、愈英國に參つて實際の有り様を見た時には何うも是れは面白くない、若しも我が國に此の様な家庭制度が行はれる様になつては大變だと思ふ様になりました、能く人様は彼國の養老院が居る所に大きな規模で盛んに設備されて居るのを見て一概に社界制度の完備仁義の理想

の様に申されませんが、一度觀察を家庭の内部に注いで其親子兄弟の關係が如何に殺風景であるか冷かであるかを御覽になると實際多くの養老院の必要なこと到底我國などの比でないことが御別りになりませう、西洋人は全然個人主義で恩愛相酬ひ禍福相補ふと云ふ様なことは親子兄弟の間にも少ないので年をとつても構つて呉れる人がなく止むを得ず、餘生をわぢ氣なく送ると云ふ仕末であります、之を我國の老人が子や孫の温き情に保護されて幸ある餘生を楽しんで居るのに比べると實に天壤の差であります、然るに此美風を捨て、唯青春一時の快樂に酔ふて妄りに泰西の個人主義を眞似様とする人の氣が知れませんが、無論私も我國の此制度を以て完全無缺のものとは思ひませんだに改良する必要は感じて居りますが、然りとて妄りに老人を排すると云ふのは如何でせうか考へるものです。

それでは現在の所何うしたら兎に角最も都合よく

行くかと云へば私の考では矢張り姑は嫁に一步を譲り嫁は姑に一目を置いて掛ると云ふ相方に義理人情を楯にして御互に衝突を避け平和を計ると云ふのが最も安全で且効果の多いものではないかと思ひます。

將來の家事教科

若林 幾造

高等女學校の家政科なるものが女學教科として教育社界に重視せられて居ることは兼々承知して居ることであるが併し其内容が果して此重望に添ひつゝあるや否やと云ふことは蓋し刻下の一問題ではあるまいか。

吾人は勿論門外漢であるから此學科が如何なる内容を有するか如何なる状態で教授されて居るか、固より關知する處でない、併し所謂家事科教科書なるものを見ると其が多くは机上の空論を書いたものでなければ徒らに清潔にす可し、入るを計り

て出るを制す可してふ抽象的軌範を示すに止まり
 て如何なる手順に如何なる方法を用ゆる時、最も
 清潔に掃除し得るか、入るを計りて出づるを制せ
 んと欲せば如何なる心掛を以て如何なる費目より
 如何に制して行く可きかは未だ嘗て教へてない様
 だ。家事經濟の練習をすると云へば何時も必ず一
 定の費目と一定の収入とによりて形式的練習を
 するに過ぎない様である。一私の學校では月收は
 いつも百圓よ」とか「私の學校は二百圓よ」と
 か話しつゝ行く女學生は能くある様である。こん
 な事で家事經濟の研究と云へるだらうか。甚だし
 いのになると何々法學士著家事經濟など、エライ
 肩書の付いたのを開けて見ると普通經濟學を縮め
 たばかりで富の定義は何々、價の原因何々と愚に
 もつかぬ學者の寢言を書いたのもある、こんな家
 事經濟書を一冊や二冊讀んだ位で何で家事の經濟
 が出来様か、又育児書はと見ると牛乳は何倍に薄
 めよとか、口は硼酸水にて拭へとか云ふことはあ

るが之を實際に行ふには如何なる器に如何にして
 行ふが最も都合よきかと云ふ實際の方法になると
 頓と教へてはない、まるで師範學校の生徒に教育
 學を教へて實地授業の練習をさせないと同じこと
 である、轉じて世人の最も重視して居る裁縫科に
 就て見ても然りである。學校で教へる裁縫は只新
 らしきものを縫ふ許りで古いものゝ利用法や補綴
 法になると頓と構はない（此頃少し注意して居る
 所もあるが）其癖世人は學校出の裁縫が一向活用
 せぬとて随分攻撃しないでもないが此處に充分の
 注意を拂つて研究して居る家事家の先生があるだ
 らうか、怪しいものである。殊に衣類の洗濯及整
 理法になると随分研究の余地もあり、應用の路も
 廣のに未だ嘗て其方法は教へられたことがない、
 伸子を張るのは、染物屋の事、着物の畳み様は母
 様に教はれと云ふ丈で能事了れりとして居る、殊
 に馬鹿らしいのは女學校の料理法である。醬油何
 勺、砂糖何勺、鹽何程、適宜に味付けて云々と筆

記する丈が精々で生徒は只之を暗記するに止まる
 會々割烹室の設備のある所で僅に數人前の料理を
 數十人掛りで子供のまゝと然といぢくり回すに
 過ぎない。

實に馬鹿らしいにも程のあるものだ。

斯る家事科の授業を受けたものが學校を出て直に
 實地にわたらうとするのだから失敗や遣り損ひば
 かりして居て何の役にも立たないので女學生攻撃
 の鋒先を強める、よい材料にされるばかりであ
 る。そこで

將來此教科をして益有用のものとならせ、適切な
 ものとならせ様とするならば刻下に於て是が内容
 の研究を盛んにし實地に直に應用の出来る様な適
 切な方法を實驗的練習的に遣らせる様に工夫しな
 ければ駄目である。

我輩が嘗て某地方女學校の割烹教室を參觀した事
 があるが愈行つて見た迄は嘸かし整頓し清潔にな
 つて居て定めし小氣味よき程に出來て居ることだ

らう、そして出來るなら我々の家庭にも眞似をし
 たい位に思ふ程なものであらうと思つて行つた所
 が豈計らんや、豫想も何もあつたものではなくて
 亂雜、不潔、一見して此様な臺所は九尺二間の長
 屋連中にも眞似が出来る、否彼等長屋住居のもの
 間に合せ臺所の方が餘程よく整頓して居る様に
 思はれた。一を以て他を押すことは出來まいが、
 若し是れが全國の女學校の多くの状態だとすると
 頗る慨嘆に堪へぬ次第である。

我國の家庭制度及び其生活の状態は世界に於て尤
 も理想に近いと云はれて居り女學校に家事教科の
 重視されて居ることも我國の一特徴である以上は
 今少し有力な、そして適切なものたらしめなければ
 ならぬ。殊に今後の女子は學校生活をする時間
 が漸次増加するとも耗ることのないものであるか
 ら、せめて學校でなりとも今少し實地的練習の出
 來る様な仕組にしてほしいものである。

家庭に於ける諸儀式(承前)

後閑 菊野

其二 着袴及就學祝

着袴ちやくこまた「ハカマギ」とも申まうします昔むかしは男をとこの兒こも女をんなの兒こも三四歳さいから六七歳さいまでの間あいだに行いひました式しきでございませ稀まれには十歳じゅうさい前後ぜんごに行いふこともありました只今ただいまは袴ちやくこといへば男をとこの兒このみに限かぎつて行いふ習なひでございませすけれども時世じせいの必要ひつやう上じやう之これは昔むかしの例れいに返かへつて男女だんぢやうに行いふがよろしいとぞんじます四季草しきくさに次つぎの通とほり記おぼしてございませす

袴ちやくこの祝いわい古いにしへへよりあることにて古書こしよに見みえたり古いにしへは女子ぢやうぢいの袴ちやくこあり女をんなも常に袴ちやくこ着はかまるなり古書こしよに在あり

又貞丈雜記またていぢやうまじきには男子袴だんしちやくこ着ちやくこの事こと三歳さい本式ほんしきなり然しかし其その人の好このみに由よりて五歳ごさい七歳しちさいにもせしことゝ知しるべしとありまして昔むかしの其そのの年ねん齡れいにしかとした定さだめはな

かつたのでございませすが當今とうこんは學齡がくれいも定さだめられ從したがて袴ちやくこを着はかまる必要ひつやうも生うまへべきでありませすから其そのの前まへに此このの式しきを行いふがよいでございませす幼兒えうじ袴ちやくこ着ちやくこの式しきを行いはぬ以前いぜんは如何いかなる大禮たいれいの場所ばしよでも禮服れいふく常服じやうふくの區別くわいべつを定さだめるに及びませす即すなはち親おやが紋附もんつきを着きる場合ばいに中形ちやうがたとか縞物しまものとかつまり常服じやうふくの形かたのものを着きて居ゐつても差支さしつかはございませすが一旦たん此このの式しきを行いつた上うへは大人おとなに準じゆんじて失禮しつれいのないやうに氣きをつけねばなりませぬ。

さて此このの式しきを行いふ日ひ時は強しひて定さだめるにも及びませんが滿六年まんねんの誕生たんじゆ日に於おて行いつたならば必要ひつやうにも應おじ道理だうりにも適かなつてよいであるうとぞんじます幕朝ばくちゆう年中行事ちやうぢやうじゆ歌合かあひのうたに

むさし野のに咲さきはじめたる藤ふじばかま限かぎりもしらぬ色の深ふかさか

とございませして次つぎの事ことが講かきそへてございませす若君わかぎみ御袴おんちやくこ着ちやくこは五ごの御年おんねんはじめて御袴おんちやくこめさるゝを以もつて此このの日朝ひあさとく執政しつせいの人ひと御使おんつかひにて御上下おんじやうじやう五ごく

だりを進ぜらるる後、おまし所にて御對面あり御所は熨斗目、長袴を奉り若君は御熨斗目、半袴を召させ給へり執政はじめ長袴を着す同じ日紅葉山の御宮へ詣で給ふこの宮に豫參の溜詰執政は直垂なり還御の後おまし所にて御祝あり御盃の間御刀、脇ざしを參らせたまふ御所よりも紅葉山に代參を向けらるる兩御所に召しあふ輩に御祝の餅酒を賜へり云々
今試に私考を述べて見ませう

座敷飾
座敷飾は強ひて特別にするにも及びません前の誕生祝に掲げましたものに準じて相當に裝飾すればよろしいのでございませう

祝式

賓客一同が座敷に列席しました時主人が稚兒を引き連れて立ち出で豫で定めておいた座席に着かせますその座席は母の次の席が相當でございませう此の時熨斗三方を出しまして一同が挨拶をいたし

ます挨拶が済みましたら主人が袴親の前に進み出まして一禮し次に一同に向て之を披露いたします袴親も此の時一同に對して挨拶をいたすのでございませう此の袴親と申すは當日稚兒に袴を着けてやる人をいふのでございまして賓客中最も敬すべき人に主人から前以て頼んで置くのでございませうさて主人は稚兒をつれて袴親の前に進み子供に禮をさせます此の時袴一具を席蓋に載せて持ち出まして主人の傍にさしかかせます主人が之を受取りまして袴親の傍におさます袴親は稚兒を助けて起立させまして親ら袴をとつて之に着けてやりませう稚兒が座して禮をいたします時就學に關する簡単な訓言を與へるがよろしうございませう之が終りました時袴親が稚兒を自分の傍に坐らせましたとき座客一同が祝の言を述べます。

それから主人は稚兒をつれまして奥に入り天照大神の神前と先祖の靈前とを拜せしめます神前と靈前とは豫め之を清めて神酒と二重餅とを供へて

おくのでございます。禮拜がすみましたら再び座敷に連れて出まして母の次席に着かせます。それより先づ吸物膳を袴親と稚兒の前に出し三盃を持ち出で、袴親と稚兒との間に盃事をするのであります。其の次第は、

まづ初に袴親に盃を進めて一献注ぎ（三度つぐを一献といふ）袴親之を飲みて稚兒にさす。稚兒一の度は先づ稚兒に進め、稚兒より袴親にさす。次に酌人また盃の相替をなし三番目の盃を上にして持ち出で先づ袴親に進む。袴親一献飲みて稚兒にさす。稚兒一献飲みて之を納めるのであります。これです。盃事は済んだのでございますから一旦此の吸物膳を下げ、それより更に賓客一同に膳部を進めて賑々しく祝宴を終るやうにするがよろしうございませす。

稚兒が此の日着ける袴は其の家で調製します。普通でございませすがまた袴親から贈ることもあるの

でございませす

献立

當日賓客に進める饗饌の献立は其の家の貧富によつて同じくないのは勿論であります。が只能く其の種類や品柄を選んで失禮のことのないやう氣をつけねばなりません。今次に一二の例を擧げて見ませう。

第一例 季節五月頃

吸物膳

刺身

口取

焼物膳

副膳

焼物

鯛

鮎

皿

獨逸ピフテキ

こち 蕪菜 花柚子

平目 せまぐろ つまみ添ふ

蒲鉾 伊達巻 玉子 栗ごんとん

焼鳥 香茸

鯛

鯛

鯛

鯉の味噌汁 吸口山椒

獨逸ピフテキ

酢の物 <small>すのもの</small>	小鯛 <small>こたひ</small> の菊 <small>きく</small> の葉 <small>は</small> 蒸 <small>じょう</small>	茶碗 <small>ちawan</small> 蒸 <small>じょう</small>	鶏肉 <small>けいにく</small>	竹輪 <small>ちくわ</small>	松茸 <small>まつたけ</small>	三葉 <small>みつば</small>	銀杏皿 <small>いんぎょうざら</small>		
酢 <small>す</small> の物 <small>もの</small> さより	赤貝 <small>あかがい</small>	三杯酢 <small>さんぱいす</small>	刺身 <small>さしみ</small>	鱸 <small>つまな</small> 添 <small>そ</small> ふ	鮫鱈 <small>さめ</small>	山葵羹 <small>わさびかん</small>	霜降 <small>しもり</small> かしは	岩石玉子 <small>いはいしたまご</small>	栗 <small>くり</small>
副膳 <small>ふくぜん</small>	口取 <small>くちとり</small>	吸物 <small>すいもの</small>	吸物膳 <small>すいものぜん</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>
本膳 <small>ほんぜん</small>	汁 <small>じゅう</small>	鉢物 <small>はちもの</small>	猪口 <small>ちやくち</small>	香 <small>かう</small> の物 <small>もの</small>	飯 <small>めし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>
つみ入れ	菜 <small>な</small>	白味噌汁	鰻 <small>うなぎ</small>	筍 <small>たけのこ</small>	慈姑 <small>くわい</small>	甘煮	根芋 <small>ねいも</small> の胡麻 <small>ごま</small> あへ	一夜漬 <small>いちやづけ</small> 白瓜 <small>びやくわ</small>	味噌漬 <small>みそづけ</small> 大根 <small>だいこん</small>
第二例 <small>だいり例</small>	季節 <small>きせつ</small> 十一月頃 <small>がつころ</small>	柏餅 <small>かしわもち</small>	鮫鱈 <small>さめ</small>	鮫鱈 <small>さめ</small> の味噌 <small>みそ</small> 吸物 <small>すいもの</small>	山口山椒 <small>やまぐちさんしょう</small>	吸口山椒	香 <small>かう</small> の物 <small>もの</small> 、一夜漬 <small>いちやづけ</small> 白瓜 <small>びやくわ</small>	味噌漬 <small>みそづけ</small> 大根 <small>だいこん</small>	味噌漬 <small>みそづけ</small> 大根 <small>だいこん</small>

膳 <small>ぜん</small>	副膳 <small>ふくぜん</small>	膳 <small>ぜん</small>	吸物 <small>すいもの</small>	客物 <small>きやくもの</small>	菓子 <small>くわし</small>	飯 <small>めし</small>	香 <small>かう</small> の物 <small>もの</small>	猪口 <small>ちやくち</small>	鉢物 <small>はちもの</small>	汁 <small>じゅう</small>	本膳 <small>ほんぜん</small>	焼物 <small>やきもの</small>
汁 <small>じゅう</small>	鉢物 <small>はちもの</small>	猪口 <small>ちやくち</small>	香 <small>かう</small> の物 <small>もの</small>	飯 <small>めし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>
鏡茄子 <small>かがみなす</small>	半平 <small>はんぺん</small>	曲鯨 <small>まがじ</small> の煮 <small>に</small> びたし	焼松茸 <small>やきまつたけ</small>	芝海老 <small>しばえび</small> さきみあへ	奈良漬 <small>ならづけ</small> 瓜 <small>うり</small>	茄子芥子漬 <small>なすからしづけ</small>	小豆飯 <small>あづきめし</small>	菊花形蒸菓子 <small>きくがたじょうき</small>	カステイラ	序 <small>ついで</small> に右膳部 <small>みぎぜんぶ</small> のならば方 <small>かた</small> をかきとへておさませう	焼物 <small>やきもの</small>	焼物 <small>やきもの</small>
三杯酢 <small>さんぱいす</small>	赤貝 <small>あかがい</small>	三葉 <small>みつば</small>	銀杏皿 <small>いんぎょうざら</small>	竹輪 <small>ちくわ</small>	松茸 <small>まつたけ</small>	三葉 <small>みつば</small>	茶碗蒸 <small>ちawanじょう</small>	鶏肉 <small>けいにく</small>	刺身 <small>さしみ</small>	鱸 <small>つまな</small> 添 <small>そ</small> ふ	鮫鱈 <small>さめ</small>	山葵羹 <small>わさびかん</small>
口取 <small>くちとり</small>	吸物 <small>すいもの</small>	吸物膳 <small>すいものぜん</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>	菓子 <small>くわし</small>

米國東方の幼稚園

女子大學 甲賀 藤子

私は先年一度彼地へ参つた事がありませんので、久々振り、丁度十四年程を距てた久しぶりで参りましたのですが別段是と云ふ的も御座いませんで再び元と居たことのあるケンブリッジと云ふ所へ向けて参りました。此地はボストンを去る電車程二時間許りの所で其處には婦人青年會所屬の寄宿舎がありますので其處へ宿ることに致しました。一寸御話がそれますが此様な寄宿は米國には或は教會或は特志な個人に因つて所々に立てられてありますので私共には至極安心で且便利で御座います。そこで此處へ宿りましてから先づ第一に自分の元と居たことのある幼稚園を尋ねるところに致しました。私は前年此處の幼稚園で研究をし練習を致しましたので大層なつかしう御座いますので先づいの一に尋ねることに致しました

参りますと丁度學期の始めて御座いましたので大層混雜して居りまして監理者は參觀を謝絶したいと申したのを事情を申して漸く許可を得て室内に入つて見ますと家も部屋も昔の儘で聊かの變りもなきに唯異つて居りますのはしたはしき舊師のなもかけがないのと愛らしの昔なじみのないばかりでありました。殊に驚きましたのは幼兒保育の方から材料迄も一切昔の儘と云つてよい位におなじみの唱歌やおなじみの手技が極めて澤山で一向に進歩とか變化とか云ふものが見えませんが我ながら一驚を喫しました。變化した所は唯僅かに手技の一部分で其他は會集の模様やらお歸りの様迄が凡べて其昔の儘で御座いました。其處を暫く參觀致しまして後或人の勧めに因りましてボストン師範學校の附屬幼稚園を參觀することに致しました。此幼稚園は現時は此地方に於ける模範幼稚園で附近數十の幼稚園の主動者たるもので御座います。

一體此ボストンの市内や其附近には舊式の遣り方が大層盛んで御座いまして、多くは皆フレーベルの所謂なされたと申されて居る所の方法を其儘用ゐて居りますので、別段に改良されたとか變更されたとか云ふ程の個所も見當りませんでした。唯其中で先年一度参つた事のあるもの、目に映つて多少注意を牽きました所や、一寸面白く存じました所を順序もなにもなく申述べますと次の様なので御座います。

室内の裝飾

幼児が初めて幼稚園に参りました頃には部屋の中には何等の裝飾も致しませんで唯僅に聖母マリアの肖像や幼児の愛らしい姿など二つ三つ位を壁上に掛けて置く位で別段是と云ふものもなく一向淋しいもので御座います。それから一日〜と段々に日も經ち御話の數々積もつて参りますのに連れて、大工の話をしては大工の繪、お家の繪などをかけ、子供は又自分達の家から道具の繪など持つ

て来ては之を掲げなどして飾つて見たり、鍛冶屋の話をしては其に關しての繪を掛けたり挺の畫いてある雑誌の切り抜などを持つて来ては之を帖りつけたりして段々と壁の飾りを殖して参ります、そしてクリスマス時分には室内はなかく賑々しく飾られる様になるのであります。

十一月の終の木曜日即ち彼地では感謝日と申して居りますが此日には子供は各々の家から色々の穀物や果物を持つて参りまして部屋を飾り、そして其後は之を貧家の子供に分けて遣つて悦ふと云ふ習慣になつて居ります。

又此秋の頃は木の實が澤山ありますので其小さなものなど集めて糸に通して輪を構しらへて己れの敬愛して居る人に上げる事になつて居ります。私の只今持つて居ります此の赤い小さな實(日本の小さき小豆位)の首輪は是はハワイに居ります頃彼地の児供が呉れましたので御座います。そして此輪は人に呉れます許りでなく部屋飾にも用ゐ

るので御座います。其他花の咲いた時などには態々取つて来て教師に呉れますことが度々御座います、或時には之れが爲めに子供が或支那人の家の庭に咲いて居た花を摘まんだと云ふので警察迄引張られました位で御座います。話が色々になりませんが、部屋飾りに斯様に自然物を用ゐます外に木の葉の押葉に致しましたのなどは剪纸の時に利用して恩物とも致します。

恩物

恩物は凡べてフレーベル先生のなされましたその通りに致して居りまして、昔の儘で一向變つた所が御座いせん。僅に違いますのはたゞみ紙の用紙が従来よりも大きくて此位(方七寸)のを重に用ゐて居りまして幼児にも工夫させて居りました。此たゞみ紙のたゞみ方の中には幾分かフレーベル先生の仕方よりも容易く簡單にしたのが中にある様に存じました。其外粘土細工でも、談話の仕方でも別段大した變りも御座いせんが、一

般に子供に採つて面白く且容易く理解出来る様に工夫するのを主眼として居る様で御座いました。それから部屋飾りの中で何處にも盛んに行はれて居るのは窓敷居の外側に棚を造つて之に種々の盆栽を載せてあることであります。是は中々趣味のあるよい思ひ付だと思ひました。

保姆研究会

ミスフッシュヤ嬢と申されるボストン師範學校附属幼稚園の主任保姆は、此市内及其附近の幼稚園の保姆達を集めて、題號の様な研究会を起して居るで御座います。此會は毎週一回開きますので會員は六百名許り御座います。其仕事は先づ次週に於て爲さる可き豫案を構しらへて之を報告し、夫れに關連して注意す可き件々を話しなどした後で、前週に實驗した事など話し合つたり、又は誰々の先達ての方法を實驗したら何んな結果を得たとか云ふ様實驗談をしたり、或は討論などをしたり或は私の幼稚園には斯く々斯様な子供が居

るが是は何う扱つたらよいかとか、或は私の所には斯様な面白いことがあつたとか云ふ様な交換談をして、頻りに眞面目に質問やら論難やら致して居りまして誠に盛んなとて御座いました。が一體斯る盛んな有様を此地方に現はす様になりました其源泉はミセスクエンシーと云ふ方の非常な熱心な御盡力に因りますので、此方が始めて此地に來られた頃には誰れも幼稚園など見向きする人もなかつたのを日夜奔走して遂に附近數哩の中に六十有餘の幼稚園を設立し私財を抛つて之が經營に盡された結果が遂に今日ある様になつたので御座います。今日では幼稚園の保姆となるには何して

新式と舊式

も此ポストン師範學校に學ばなければならぬ様に此幼稚園を重んずる様になつたので御座います。此頃幼稚園の保育の方法に新式と舊式と云ふことを申しますが、ポストン附近は前申上げました通り重に此舊式に屬しますので新式と申しますのは

シカゴ、ニューヨーク、邊に多いで殊にニューヨークには所々盛んに主張されて居りますが、シカゴのは最も整備して居て模範的だと云はれて居ります。そこで此新式と云ひ舊式と申します其區別は何處にあるかと申しますと、一口で申せば恩物の取り扱ひ方が所謂新式と申す方は頗る自由に富んで居て毎週の豫案なども子供の様子や何かで自由に變更して行ふと云ふ風で、且天氣のよい日には室内の恩物よりも外の遊びをさせると云ふ風なのであります。舊式の方ですと豫案は豫案で變更する様な事はめつたには御座いませぬ位であります。積木なども舊式の頑固なものに比べて新式では机上で小さなのを使はすなどはしないで大きな、煉瓦位のものを使つて門を造り家を構らへて出來上れば其中を通り抜けたり、もぐつたりして遊びますし、庭園内の花でも石でもどしどし使つて遊ばせ、談話なども時に應じてすると云ふ風で頗る自由になつて居ります。殊に其中でも目立つ

て自由で面白く感じましたのは子供のする芝居の様なもの、當地で此頃ぼつ／＼行はれるお伽芝居の様なものでありませう。尤も此方のは商賈人のするのを見れば子供が見る丈ですが、彼地のはそをではなくて子供が談話で聞いた事を其儘舞臺に昇せて賣演するので、日本ならば桃太郎の話をしたら、夫れを其儘芝居にすると云ふのでシカゴあたりでは盛んに行つて居りまして近頃は所々で行はれる様になつて居ります。

御参考の爲めに一つ御話ししますと舞臺は一面クリスマス朝景色で数人の子供が皆夫れ／＼例のストツキングの中のサンタクローズの贈物を見て喜んで居ると其中の二三人が頗る不平顔で「私のストツキングは何故一杯詰まつて居らないのだらう」と云ひて居る所へ何處からかサンタクロースが出て来て此等の子連れで行くと云ふ所で幕が變ると今度は背景一体に人界を離れた様な所で異様な風をして數多の妖精が躍つたり跳

ねたり頭を打ちつけ合つたり手を觸れ合つたりして喜々として悦び騒いで居ると何處ともなく靈光鋭く照り輝いて大勢が眼を眩ゆがらせると一方から先程の子供等が出る、其處へ天より神様が來られて先程の子供の中から先刻不平を云はなかつた子供を連れて天國へ行かうとするので他の大勢の子供等が我知らず、合掌拜跪すると云ふ趣向です。

幼稚園の大きさ組分け

何處の幼稚園（私の見た丈）でも幼児の數は大概七八十名が止まりで百以上になる所はない様で御座います。殊に模範とも云はれる所は大底三十名位であります。ポストンの附屬幼稚園も矢張三十名計りで之に正副二名の主任者と實地研究目的で來て居る助手が六合位御座います。組分けは皆幼児心身發達の度に應じて分けてありますから大概年分けと思ふて間違ひありません。

家庭保姆の選擇

中村 五六

教育と云へば小學校中學校などの様な或特別な教育場で行はるものでなければならぬ様に考へて居つたのは、ついでと昔前の事で、當時家庭教育だとか小學校以前の教育だとか云ふものは、とんと世人の眼中にはなかつたと云つてもよい位で、唯僅かの教育關係者が頻りと鼓吹したに過ぎなかつたのが、何うでせう、今日此盛んなる有様は！實に明治四十年は家庭教育、幼児教育の大に發展す可き時期だらうと思ひます、否大に發展させなければならぬものでせう。吾々職に此途にあるものは一大發奮して斯道の爲めに盡さなければなりません、そこで斯くも幼児教育發展の機運の向ひ來ると共に益大なる注意を拂はなければならぬのは、幼児教育者其者を改良し之をして完全なるものとならしむ可きことです。幼児教育者即ち現

在の所謂保姆なるものが何時迄も不完全であつては、逆も教育は完全し様がありません。従つて完全なる保姆の養成と云ふことは、刻下の急務であります。然るに我國には未だ此種の師範設備が何處の地方にも欠けて居ると云ふのは實に遺憾なことであります。併し一方から考へて見れば之も無理はないのです。教育の最急務たる普通教育機關即ち小學校、中學校等の施設に逐はれて比較的急を要さなかつた方面を閑却したので多少恕す可き理由があります。併し完全なる教育は如何にしても完全なる基礎の上になければ築かれない筈のものですから、進んで我子の完全なる發達を望まらるゝ方は家庭教育、即ち幼児教育を輕々に看過しない様になるのは、當然の事で、今日上流社會に於ける家庭教育改良の流行も決して偶然ではありませぬから我輩は何うかして完全なる保姆を供給したいものだと思ふ苦心して居る次第です、そこで我輩は是等の家庭から、適當な家庭保姆招

聘の依頼に接する度に常に一方には國家の爲め大に忻喜の情に耐えないと同時に一方には其撰擇に關して何時も大に困難を感じて居のであります。何故困難を感じるかと云ふと今日の多くの所謂保母と云ふのは第一に其素養が極めて低度の普通教育より外ないと云ふこと、第二には皆多くは幼稚園の保母としての修養はあるが家庭保母としての修養のないことであります。

斯く云ふと人は云ふかも知れない。幼兒を看護する位に何も高等の教育はいらないではないかと然り誠にそをで我輩とても何も高等な専門的學術を極めると云ふのではない、併し少くとも家庭保母たるものには高等女學校程度の教育は之を要するのでは是より以下の學力では逆も多方面な幼兒活動を指導するには足りないものです。即ち完全なる家庭保母としては少くとも小學校本科正教員たり得る丈には普通學を修得しなければなりません。一寸子供に博物上の花や實に就てお伽ばなし

をするにしても、學術上の智識と衝突した間違だらけの俗説や、迷信を其儘堅く注ぎ込まれたのでは從來眞正な教授をする時に何の位邪間になるか知れませんが。保母に高等教育が要らないと云ふ人は幼兒に學術を授くる必要がないからと云ふのでせうけれど、吾々だつて勿論幼兒に教へるので必要だと云ふのではなくて一つは誤つた先入觀念を造らぬ爲めの用心と一つは幼兒の觀察力を誘導し其興味を刺戟するのに、後來進入す可き所を知つて居る人のするのであると云ふ意味から唱へるのであります。今日世に多くの家庭に従事して居る家庭保母は果して是丈の修養ある人でせうか、我輩は一日も早く是位の家庭保母が所々の上流社會の保母中に表はるゝ様したいものだと思つて居ります。

現在在是程の修養のない人は勉強して、せめては尋常科正教員位の免狀を取れる位には修養しなければなりません。次に一つ家庭保母の撰擇を依頼

されて困難することは、現在の所謂保母と云ふものは單に幼稚園の保母としての修養をしたと云ふに止まる丈の人が多くて、家庭保母としては餘りに偏狭で融通がきかないので困ることです。元來家庭保母と云ふものは兩親の教育的活動殊に母親の教育的活動を補助すると云ふのが本來の目的でありますから萬事が其積りで行かなければなりません、勿論或場合には母親乃至父親をも凌駕し説伏して充分な教化力を現はすことがありますが、之は稀に起ること、多くは日常父母の繁忙なのを助けて自ら慈父慈母になり代つて兒童の活動を看護し指導し其身邊の世話を見て遣ると云ふのが本職であります。従つて家庭保母が職責上、研究して置かなければならぬ事、心得て置かなければならぬ事は頗る廣い範圍に亘るもので先づ第一には兒童の生理的方面即ち養育上の理論及方法の研究であります。之が通常の幼稚園通ひの先生ならば普通衛生學一般を心得て居る丈けでも濟むこ

とですが、身荷も家庭保母としても慈父慈母の教育共同者たり時には教育上の顧問者たらんとする人では何うしても自ら母の位置に立つても毫も差支ない丈位に養育上の研究をして置かなければなりません。尙遠慮なく申せば兒童をして如何に兩便の習慣を得せしむべきかと云ふこと迄も考へて置かなければなりません。其他就寢、起床の事や洗面着衣等の自治的習慣乃至は普通看護法なども勿論保母たる人の理想中になければならぬ筈のもので、然るに是程の修養をした人と云ふものは現在の保母（殊に家庭保母たらんとする婦人）の中には極めて稀なので困ります。併しそこは又御方便なもので保母を招聘される方でも是程に考へて注文する人は今の所ないから何うにかごまかして濟んで居りますが、今少し進んで來たらば其時には是位の資格あるものが必要となるに極つて居ますから、修養する人は今から其積りで勉強しなければなりません。彼の家庭保母を以て下女や

子守の少し氣のきいたものの様に自らも考へ、雇主をもそを思はしめて純然たる下女扱ひにされて平氣で居る様な風は將來根絶しなければなりません。之を果たすには保姆の資格が充分右様の理想に達するものでなければなりません。

次に家庭保姆として最もよく研究して置かなければならぬ事は兒童の活動の全部を支配すると云ふ事です。何にせよ朝起きて寝る迄の監護指導をするのですから之が保姆たるものは兒童活動の全部に就いて充分正當な觀察と見解とを有し、全極の目的を明に理想し得る人であり尙其上に如何にせば幼兒を此理想に誘導する事が出来るかと云ふことに就て正しい考へ、合理的な手段方法を持つて居る所の人でなければなりません。斯様な教育的的眼光を備へた家庭保姆と云ふものは現在極めて少數なものです。こんな有り様では折角家庭保姆を招聘して置く甲斐はありませんから之は何うしても改良しなければなりません。そして子供の

活動の全部に亘つて充分統一した考のあるものを求めなければなりません。之が中々困難です。現在幼稚園などに永年經驗ある人などでも一人二人の少數な子供の側に朝から晩迄付き、りにして能く子供と調和を保つて行くことの出来る人、そして子供に窮窟な感じを與へないで子供の行動を指導する人、小言を云はず聲を荒らげないで自己の命令を果たし威信を保つことの出来る人と云ふものは割合に少くないものです。幼稚園の様な一日一定の時間だけ勤めれば後は自由に休める處は然のみ有力の人でなくとも出来ませうが家庭保姆は假令時には母親が代理して呉れるとしても夫れは一定して居ませんから之を勘定する譯には行きませず、従つて殆んど全く休みなしに子供と共に活動する積りでなければなりません。然らば斯様な資格のある人はどんな人であるかと云ふとは少くも高等女學校卒業以上の人で然かも教育學と、保育事項とを餘程實地的に研究した

人でなければなりません。教育學の實地的研究と云ふのは一二冊の教育學書を講義して貰つただけではないので尙此上に實地に練習し工夫し調査することを云ふのです。

以上養育と活動の兩方面に就て相當の考があり技術があれば夫れで家庭保母の技量は充分でありますが併し其人が愈家庭に入るとしてはも一つ調へなければならぬ事があります。之が家庭保母撰擇上に於ける最後の試験で之を満足にパスする程の人を之からの上流社界では大に要求するに違ひないのです。其は何かと云ふと家庭保母其人の人格即ち之です。如何に考へがあり技量があるにしても之を愈實地に行ひ施して効果あらしめることが出来るか出来ないかと云ふことは所詮其人の人格問題です。世間には能く一つに調へると腕前もあり、學識もあり可なり有爲な人であると思ふのに愈實地に働かして見ると一向映へない人があるが是等は多く其人自身が充分の纏

りがつかず。凡べての識見が組織整頓しないために統一した行動を表はすことが出来ないので詰まる所人格の成立が不十分なのである。人格に缺ける所があつては教育は到底行はれるものではありませんから斯様な人は如何程素養があつても役には立ちません。

今後家庭保母を選ばざる方又は自ら家庭保母たらんと思ふ人は以上の三點に殊に注意することが必要でせう。

おはなし

筑紫の媼

一、溺れかゝつた子供

一人の子供が川の中に落ちて溺れかゝつて居つたところか、そこを通りかゝつた人が見付けて、すぐに助けるのかと思へばそうでなく、ゆつくりと話をしかけた。したうなせおまへはそんなに言ふ事をきかなんだ、おまへは川の深い事を知らなかつたのか、阿母さんは其中へ入るなと言つただらう、それにおまへは言ふ事をきかなかつたから罰をうけたのだ」すると子供は「なごさんどうか早く助けて下さい、あとでゆくり小言をきいますから」(廿六頁につづく)

「火無し竈」の實驗

本 郷 生

本誌第六卷第十二號に於て、火無し竈と云ふことについて吾輩が一寸紹介しましたところのことは、まだ讀者の記憶に新たなることでありませう、其大要は物を煮る際に、一度沸騰を始めたら、久しく之を煮ないでも、手早く之を適宜の器に藏して其熱の逸散を防いで置けば、物は其器の内にありて自然に煮える、之れが爲めに手数は省け、薪炭の儉約は出来、其他種々の便利のことがある、そして其適宜な器と云ふものは、別に六ヶ敷き装置を要するのではなく、孔や割れ目のない木の箱に枯草を詰め、其内に錫を埋めると云ふのであつた、吾輩は之を本誌上に紹介した後、餘りに面不到なことでもないから一つ實地に試して見やうと決心した、そこで如何なる箱を用ひ如何なる手段に依りて之を爲さうかと、色々考へて見たが、適

當の箱も手許になく、馬が居ないから枯草は勿論ないと云ふところから、取り敢へず醬油の樽の明いたのを箱の代りとなし、綿を以て枯草に代へて實驗に取りかゝることに致した、
最初に試みられたものは大根の厚さ五分位に切りたるものと、里芋の頗る大なるものと二種を、鹹氣なしの湯で煮ることであつた、何んでも晩の七時頃にもなつたのであらう、樽の底に厚さ七八分に粗穀を敷き、其上に小さき蒲團を置き、蒲團の上に土瓶敷を置き、之れに熱い土鍋を置いて、綿でよく包み、後で樽の蓋を蔽ひ、稍重さものを此上に載せて置いた、それで其晩は其儘打捨て置いて、明朝七時頃之を開いた、細君も来て居る下女も来て居る、無心の子供迄も物珍しげに、そこに來て居る、吾輩が技師長たる資格で、手ら蓋を去り綿を剝いて、先づ手を以て土鍋の蓋に觸れ「温い！」と云ひながら蓋を開いた、湯氣は立つ、大分に宜しそうである、箸を取り寄せて之れを貰い

て見たが、大根の方はどうも上等の出来とは申されなかつた、併し食ふに堪へぬものではなかつた一方の芋の方は一點批難すべきものがないので、一同の評は「稍可」位のところに歸着した其晩に第二回の實驗が着手せられ、水に浸して置た豆を試むることになつた、仕方は前と同様で、只綿の包み方が上手になつた位が相違の點である其成績は頗る佳良、先づ遺憾なきものであつた、そこで一層綿の包み方を注意して再び先きの大根が試みられた、成績は一步を進めたと評すべきではあるが、望みの程度に達したとは申されない、技師長は考へ始めた、成績は「驚喜」と云ふ程でない、其上かゝる手数を要する如きことでは、これを各の家庭に實行すると云ふのには不都合である何でも、手輕にして好成绩を擧ぐるものでなくてはならぬと云ふので、彼れや此れやと考へて見たが差當り試みて見やうと思ひ付いた方法は、粗末な籠の數個をつくり、之に紙を張りて所謂「張り

籠」となし、之を以て蒲團の上に載せてある土鍋を幾重にか蔽ふと云ふことであつた、之で若し成功すれば、手数は至つて簡單であるし使用せざる時には此張り籠は他の途にも用ふることが出来るし、設備費も至つて少なくして濟むからと云ふので早速籠屋に注文して、最小のが徑八寸深さ八寸、其次のは徑九寸深さ九寸と云ふやうに、各方に一寸づゝを増して凡べて五つの籠を作つた、やがて之に數枚の新聞紙と日本紙とを張りて「張り籠」が出来上がった、
 一体熱の傳導を妨ぐるものゝ内で、瓦斯体は其最良なるものであると云ふことが分つて居るから、如上の裝置は設令温りたる空氣の射流の爲めに、幾分の不成績はあるにしても、幾重にか境せられてあると云ふことの爲めに、先づ以てかなりに目的が達せらるゝであらうとは思つて見たが、又一方より考へて見れば、十分の成績を得んとするには土鍋が小さくては他の仕方が如何に完全でも到底

いかぬ、其内に籠りて居る熱量が少いから、夫れ故に出来る事なら大なる器で試みるがよいと云ふことになつて、前々の實驗に用ひたるものに比しては、頗る大なる土鍋を用ふることになつた。

この計畫に従つて、第四第五兩回の實驗が行はれた煮るべき材料はやはり以前のものであつた、此成績は實に何れの點より見ても申分のないものであつた。

吾輩は此好成绩を以て、何の原因と見做すべきかに迷ふた、即ち突飛なる考へとして家のものに笑はれた「張り籠」の効能であると見て宜敷からうか、それ共に土鍋が大きくなつたが爲めと見てよろしからうかと迷ふたのである。

「事實をして語らしめよ」と云ふことに決心して、更に次回の實驗が、前に用ひたる小き土鍋を以て試みられたところが、不幸にして其結果は甚だよろしくない、最初に綿を以て此土鍋を包んで爲した時よりも、一層不出來であつた、そこで、疑問

は解けて、此張り籠は、熱の逸散を防ぐものとして、其機能が綿を以て直接に包むに比して劣る前回の實驗に成績の佳良なりし原因は、土鍋の大にして多量の熱量を保ち居つたのが主原因であると云ふことが、分つた、

そこで張り籠の功力を大ならしめんが爲めに、籠と籠との間に綿を詰めたもので更に數回の實驗が試みられた、其初回には最も小き籠と其次の籠との間にのみ綿を入れて、其二回目には最大のと其次のとの間に綿を入れて、(之れにて綿の層は二重になつた、第三回目には籠と籠との間に凡て綿を入れて試みられた、併し何れの成績にも大なる相違はない、概括して不成功との評を下してよいのであつた。

此等の實驗を行ふて、居る内、煮熟の完成不完成と云ふことは、鍋の大小、鍋を包む仕方の相等に關係する外、煮らるゝ品の性状の相違、(即ち同じ豆でも水に浸されし時間の長短によりて生ずる差

違の如し) 沸騰に達する迄の時間の長短等の他の
 いろ／＼の原因に由りて、左右せらるゝと云ふこ
 とに氣が付いて、之を研究するには「今度は煮へ
 た」とか「煮へなかつた」とか云ふ様なことを標
 準としては、到底駄目であると云ふことになつて
 來て、一定時間の後、鍋の内の物の温度を檢査す
 ることになつた、考へて見れば、此明白なる事柄
 に、何故に最初から氣付かなかつたかと、自分な
 がら耻かしい氣がするのである。

それから十數回の實驗が、時々には豆を煮たこと
 もあつたが、多くは只何もしないぬ水で試みられた
 四時間の後に於て、鍋の内の湯の温度は平均次の
 如きものとなることが分つた、

(A) 四合入りの土鍋の時

(一) 醬油樽に入れ綿を以て包みしもの

五十七度

(二) 五個の張り籠を用ひたるとき

四十七度

二十四

(三) 全前張の籠の間に綿を入れたるとき

五十二度

(B) 二升入りの土鍋を用ひたるとき

(四) 醬油樽に入れ綿を以て包みしもの

七十四度

(五) 五個の張り籠を用ひたるとき

六十九度

(六) 全前張り籠の間に綿を入れたるとき

七十三度

右の結果に依りて見れば、樽の内に入れて綿にて
 包むと云ふことが、最もよろしく、間に綿を詰め
 て張り籠にて蔽ふと云ふことが其次ぎであるが、
 併し最も大切なことは、容器が大きくして、其
 内にある厚き品物の多量なることである、品物の
 量だに増して來れば、之を包む手順に愈容易にな
 り、鍋が小さく品物が少量となるに従て、如何に注
 意しても結果は不良のものになりたがると云ふこ
 とが分る、夫れ故に、各の家庭に於て實行せられ

得ると云ふものは、容器の大なる時に、之を然るべき蒲團の上に置き、間に綿か、枯草か、毛布の小切れかを詰めたる張り籠をもて重ねてく蔽ふと云ふことが軽便であるちしく思はるのである併し困ることには、吾輩の如き三人か四人暮しの家庭では、無暗に大なる器にて物を煮ると云ふことも出来ぬので、何んとかして器が小さくても、極端に小さくは無論蛇目であるが……十分に出て来てそれで手数が簡便な方法はあるまいか、小家庭に實行して便利な方法はあるまいか、と云ふところが疑問として残つたのである、此疑問の解答案として案出せられたるものは、次の方法であつた。

(未完)



おはなし

二、鸚 鵡

筑紫の媼

或老人が二三種の詞を話す鸚鵡を一羽持つて居ました。主人がお前は何處に一言ふと。鳥は「私は此所に」と言ふ事ができましたところが隣の家の息子は之をおもしろがつていつも見に来ては遊んで居るのでした。或日いつもの様に来て見ると老人は丁度不在です。それでふとした出来心で鳥を盗んで懐に入れてそつと歸らうとするところに老人が歸つて來まして。そして鳥の居ない事には氣がつかないで、いつもの様に隣家の息子をよるこぼせるつもりでいきなり。「お前は何所か」と話しかけました。すると鳥は一生懸命の聲で。「私は此所に」と泥棒の懐の中で叫びました。

三、無上の寶

ローマのコレネリーといふ婦人は二人の息子をもつてよく注意して教育して居ましたから。二人共小さな時から中々立派な氣質で良い人間でありけた。或日或婦人がコレネリーの家を訪ひまして話の席には自分の飾つて居る寶石を示しまして。今にコレネリーからも見せるであらうと思つて待つて居りました。そうするとコレネリーは丁度今學校から歸つて來た二人の子を呼びまして。婦人に示して「私の最も良き最も貴き寶はこれでございます」と言ひました。

ナポレオンの母

孤蓬生

ナポレオン、ボナパートの母マリア、レチデア、ロモリニは千七百五十年八月廿四日、コルシカ島のアジャチオに生る、容姿秀麗なりしが故に早く嫁せり、夫はカルロ、ボナパートといひ、マリアと同じく貴族にして、祖先は十六世紀の頃コルシカに移住せる伊太利人なり、二人の中に初めて生れしはジヨセフなり、ジヨセフは初めネーグルスの王となり次にスペイン 轉じて印度の王となれり、マリアの結婚當時はコルシカは戦亂打ち讀きて國中麻の如くに亂れたり、そはコルシカの人民バスカル、バヤリを將としてジエノアより獨立せんと争ひしが故なり、カルロ、ボナパートはバヤリとは親友にして共に愛國の心厚く、ジエノア人と戦ひて勇名を轟かせり、やがてジエノアはコルシカを佛蘭西に譲りしかば佛蘭西は千七百六十八

年五千の兵を送りてコルシカを占領せしむコルシ

二十六

カ島の貴族等は皆海岸遠き山中に入り込みて尙も抵抗を試む、ボナパート亦此中にあり。マリアは此間常に其夫に従ひ具さに其辛苦を共にす、島は遂に佛蘭西の有に歸し亂鎮まり政令布かるゝに及びボナパート夫妻は山より出でアジャチオに歸る八月十五日、聖母昇天祭（基督の母マリアの天に昇りしと言ふ日を紀念して祝ふなり）の日マリアも衆と共に宮に行きしが式に列せし時、心地悪しくなりしかば急ぎ家に歸り、何の用意もなき折にて、イリアツドの戦（ホーマーの著せる攻城物語にある戦なり）の繪を書ける紙の上に、後に天下を衝動せし大英傑ナポレオンを生み落しけり、其後マリアはマリアアナ、ルシアノ、バオレッタ、ルイギ、アンヌンヂアダ、ギロラナの三男三女を擧げぬ、ボナパート一家は佛蘭西と和し、コルシカ島の知事も親交をかはし之によりてコルシカの貴族に列せられたり、カルロは千七百八十五年

胃を患ひて死す、時に最も幼なるギロラナは僅かに二ヶ月の嬰兒なり、之等多くの子供を一手に引き受けしは哀なる寡婦マリア也、コルシカ島知事なるマルベエフは資を出してナポレオンをビエンスの兵學校に入らしめぬ、彼は次で巴里に移りて普通學校に學ぶ、長幼の子女を悉く養ひ上ぐるまでは實にマリアは貧の苦境に沈みたりき、千七百九十三年バオリはコルシカの陸軍司令官として送られしが彼素より佛蘭西ジャコピン宗の主義に反對なりしを以て、佛蘭西政府に従ふを肯んぜず英國に通じてコルシカをして英國艦隊に降らしめんとす、時に佛蘭西砲兵大尉なるナポレオンは、會々該島にありしかば、強くバオリの主義に反對し其企を妨げしが事成らず、アジャツチヲを取らんとせしも破れて追放を宣言せられ、ポナバート一家は又遁るゝの止むなきに至れり、ナポレオンは船夫の姿に身を扮して山中に逃れ入りしが土民に捕へられ既に危ふかりしも逃れて遂にカルビに

至れり、マリアは人民の怒を避けんと急ぎに急ぎ夜も日も分たず遁れ走りぬ、幼なき子等の疲れては歩むに堪えぬを背に負ひ前に抱きて慣れぬ道辿る様、實に我が常盤御前にも思ひ合はされぬ、かくして山を越え河を渡り、森を過ぎ野を分けて遂にカルビに着し此所にナポレオンが教父なるギウベヤといふ者に身を寄せぬ、やがてこゝよりマルセイユに渡り、貧困の中に數年を送り、昔富めりし頃知り合へる誰彼に少しづつ、借財しては其日々を送り暮しぬ、後ナポレオンが伊太利の總督に任ぜらるゝやマリアはコルシカに歸れり、時にコルシカは既に佛國に取り戻されたればなり、千七百九十九年十一月九日佛國の内閣崩れてナポレオン總執政官となり國の主權を取るや、一旦衰へし己が家門の繁盛に浴せんとマリアは巴里に趣きて茲に住めり、されど此間マリアは長子ジョセフの家に寓す、彼女はナポレオンが隆々の勢なるを見て彼は實に偉人なりとの感はありしもさて之

を特別に愛するにもあらず、されば多くは長子の家に住し其ローマに赴くや之に従ひて行き、歸るや又共に歸りて、ドウロシエルの邸に住めり、

ルシエン（ルシアナの事）及ジエローム（ギロラナの事）がナポレオンの怒を買ひし事ありしが其時マリアは此二子を保護し之に加擔せしかばナポレオンに冷遇せられたり、後ルシエンはジョーベルトンといふ餘り評判よからぬ者と婚せし科にてナポレオンの怒に觸れローマに居を移すの止むなきに至るやマリアは之に従ひて巴里去れり、ナポレオンは母の振舞を心よからず思ひ、後一家一門の者に封爵を分ち與へし折にも母には何等の沙汰もなくして過ぎぬ、ゆれとさすかに親子の情長へに冷やかなるべきものに非ず、やがて温かき情の湧き出でてや彼は母を巴里に呼びマダムメールの稱號を授け女王として待遇し年八万リール（我が三万圓餘に當る）の俸を給す、されど彼女の收入は年に百萬フランク（三十八萬圓程）に上り

ぬ其大部分之を貯蓄し家族中の富少なき者の爲に又不時の用の爲に備へたり、蓋しマリアは此の榮耀榮華の中に何時何時零落の淵に沈まんも圖り難しと思ひたればなるべし、

マリアの屋敷に住へし人にてアブラントの公爵夫人ユーノーといふ人、其著書にマリアの風彩を畫けり、マリアがマダムメールの稱號を受けし頃は年五十三四位なりしならん、マリアの若き頃は實に二となき美人なりき、マリアナの外は其女皆母に似、花耻かしき姿にて之はシマリアの形見と見られぬ、身の丈は四尺八寸餘り、女には恰合の高さなりき、されど長くるにつれて肩の幅は少しく廣くなり、身の態度しつかとして品高きも、丈は少しく短かく見えたり、手と足はよく揃ひ少さき足は殊に類まれに美しかりき、茲に一つの疵とも言ふべきは右手の食指の筋つまりて屈縮するを得ざる事なり、骨牌をする時殊に目立ちぬ、此頃齒は未だ一枚も缺けず、其笑顔は見る人をして實

に心魂恍惚たらしむ、容貌秀麗にして生き／＼せ
 る様見るだにすが／＼し、眼は大ならで黒眼がち
 なり、マリアは佛蘭西語を流暢に話し得ざるが爲
 に、己の身分に對して一方ならぬ苦しさを感じ、
 人と會しては己を輕蔑しはせずやと心遣ひてか甚
 だ内氣なりき、彼女は人を洞察するの明を有し、
 一見して既に其人の何を思ふかを知り、室を去る
 や其將來に起るべき事をよく豫想し得たりとい
 ふ、ナポレオンはマリアを愛せしも母として相應
 はしくかしづかず、爲にマリアは淋しき生涯を送
 りぬ、されど彼女も亦負けぬ氣に皇后其他皇宮の
 人々と相接しかしづかれたしなどは兎の毛も言は
 ず、只孤獨の居に甘んじたり云々」とかく母子の
 中、交情冷かなりしはマリアがルシエンに對する
 偏愛に起因せるならん、而して實にルシエンは才
 量侮るべからざるものありてナポレオンの手に餘
 る人物なりしかば、心私かに之を恐れしならん。
 マリアの一生を瞥見すれば讀者は實に一場の芝居

を見るが如きの感あらん、千七百九十三年に於て
 は追放の身となりて、幼兒を抱きて諸國を逍遙ひ、
 知人を頼りて辛き命を繋ぎ、六年の後には大國の
 皇帝が母と呼ばれ、大困厄の境を出づる十五年に
 して文明諸國は皆己が子女の采封となりぬ、即ち
 一子は佛蘭西皇帝及伊太利王となり、一子は西班
 牙及印度の王位に即き、一子は和蘭に君臨し尙ほ
 一子はウエスト、フアリアに王たり、而して一女
 はシシリイの女王となり一女はタスカニーの大公
 夫人となり、一女は一羅馬貴族の夫人となりぬ。
 而して尙ほ五年の後には、此榮華、朝に輝く露の
 如く、果なき夢と消え失せて、さしも旭と照り添
 ひしマリア一家は、又も逐はるゝ身となりて、見
 るも痛ましき流浪の運命を嘆きぬ。
 千八百十四年ボナバート一家流浪の時マリアは弟
 フレッシュと共にローマに逃れ豫ねての貯蓄にて然
 るべき月日を暮し、一家の誰彼、同じ窮境に在る
 者をも助けぬ、彼女の最も親しく交はりしはハミ

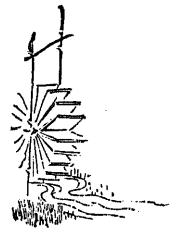
ルトンの公にして此人を二なく厚遇せり、千八百二十一年、ナポレオン、セントヘレナに死すとの報至るやマリア憂愁措かず、千八百三十年の革命後病に罹り、次第にいたく重りしかば一家の者枕邊に寄り集まりぬ、彼女の弟、子女嫁など彼女が何か低聲に祈れる様を見て、今死なんと思ふ胸の内にてせまる憂さ悲しみをよく知るものから、ともく涙に咽ぶ、モントフォード侯なるジェロームは故ありて此座に連るを後れぬ。漸く用果て急ぎ母を訪ふ、靜かに病床に近づき、母上よ我なりジェロームなり、聞き給ふや、と問へば、マリアは僅かに首肯さぬ、かくてジェロームは都にて聞ききたる噂に此度人民に利ある勅令發せられ、ナポレオンの像も作らるべき由なるを告げけるに、口に答はし兼ねたれど、病人は心のうち、言ひ知らぬ、思に充たされしにや、手を合せ眼を閉ぢて祈を捧げぬ、見れば頬には玉なす涙傳はれり、されどこは嬉し涙なりき、之より少しく病退き遂には

床を離るゝに至りぬ。母の優しき此涙、セントヘレナに洒されし冷たき骨にも其誠心を感じしならん。

益々身体衰へ、女バウレットが別邸にて或時ふと轉びしより殊に身体を自由を失ひ日も夜も常に寢臺の上に時を過しぬ。當時眼も亦用を爲さず、常に彼の女に侍する者、毎日新紙を讀み聞かせ、又は日々之の出來事を語れば老マリアは之を聞き或は我子上を思ひ、或は昔を思ひ、見えぬ眼にナポレオンの姿を偲びつなどして、想像のまぼろしにかしつかれつゝ其日を送りぬ、かくするうちに力と頼む我子等は一人死に二人逝くの計に接し老の身に更に心細くなりまさるを、殊に寵深かかりしジェローム夫人の死せしをさへてより勢頓に衰へ、千八百三十六年一月廿七日急に昏睡の狀に陥る、後少しく恢復せしが二月一日に至り更に冒され、大英雄ナポレオンの母遂に醒めざるの人となりぬ。

温泉に就きて

新免 義男



追々暖かになつて來ますのに温泉の話でもあるま
 ことの非難もありませうが、決して是をけなした
 ものでもありません、否々温泉は是からが効力が
 あるのですから、少しばかり書いて見ませう、温
 泉は其含有して居る成分の相違に依つて數種類に
 分れます、函根の湯本や堂ヶ島だの、伊豆の赤間伊
 豫の道後、肥前の古湯などは唯僅かばかりの鹽
 類を含むものですから之は單純泉と云はれて居ま
 す。それから下野の鹽原温泉や那須温泉、上野の
 草津温泉などは多量の硝酸硫酸鹽酸硼酸綠礬等を
 含んで居ますから是等は酸性泉と云はれて居りま

す。それから炭酸泉と云つて多量の炭酸を含んで
 居るものもあります。攝津の流山、神戸の諏訪山、
 肥後の滿願寺などが此類で硝子器に入れて振ると
 泡粒に炭酸が出て來る位です、次には鹽類泉と云
 ふのがあります。多量の鹽酸苦土硫酸ナトリウム
 などを含んで居るので、上野の伊香保、函根の宮
 の下、伊豆の熱海、修繕寺などは此類で随分所々
 に澤山あります。それから硫黄泉と云つて多量の
 硫化水素を含んで嗅氣のある温泉があります。日
 光の河原湯、函根の芦の湯などが是れで通常白く
 濁つて居るものであります。
 そこで温泉が療病に効のあるのは何う云ふ譯であ
 るかと云ふと、是には色々の原因があるので單に
 温泉其物の効ばかりではなないのであります。兎
 に角浴容は全身を其中に入れて浴しますから皮膚
 の生理機能を盛んにすることが出來て自然健康を
 増進する効があるのも一つは泉中に含有する物
 質が皮膚粘膜の疾病に觸接して作用する爲めなの

です。其他温泉地の氣候や空氣の清潔なることや山光風水の景色などが興ふる精神上の影響や、又湯治中は平素の繁忙、人事の煩はしさを避けて居るために自然のんきに暮して居ることが出来ることなどが大に關係する譯です。つまり湯治が病氣に宜しいのは直接的でなく間接的の從つて醫療の補助療法として用用す可きもので決して湯治萬能などと考へてはならぬものです。故に病氣の爲めに湯治に行うとするならば宜しく醫師に相談して何處の温泉及温泉場が尤も其病人に適當かを撰ばなければなりません。そして湯治に行つてからは起居動作も必ず醫師の命令に依つて攝生的に衛生的にして尙必要あらば服藥等をも努めなければなりません。無考な人は温泉につかりさへすればもをそれで充分の効あるもの、様に考へて、飲食を妄りし起居動作を謹まぬものが往々あります。何の爲めに湯治して居るか判らぬ話です。それで温泉浴に就て誰れでも通じて注意しなければならぬ

點を少しばかり述べて見ますれば先づ
 第一には湯治に行く時期を選ふことです、是は四月から十月迄の間が最も宜しい、併し此外とても決して悪いではありませんが充分効力あらしめんには前記の時機に限るのです。
 第二に湯治の期間は別段一定の議論もありませんが概して三週間が通例で時には六七週間に必要のことがあります。
 第三に入浴の度数は老人は一日に一回壯者は一日二三回で時間は午前八時より午後一時迄を適當とします。又人によりては夕方五六時頃を適當とすることがあります。食後は適宜の時間を置いてからでなければ入浴しないことです。
 第四、一度の入浴時間は温泉の性質と疾病の種類に因つて相違はありますが、概して十分乃至一時間です。熱度の高い温泉や冷泉などは十分以内でなければなりません。
 第五、鑛泉を飲用し様と云ふには、之も温泉の種

類と疾病の性質とに因つて斟酌しなければなりません。せんが一般に始めは成る可く少量にして一回三十瓦位から始めて一日四百瓦に至つて止めなければなりません。

第六、温泉の温度は病症に因つて稀に高度のものを用ゆることがありますが一般に華氏九十度より百度を超えない所が適度で若し是れ以上に熱かつたら暫く放冷して冷してから用ゐる様にして、決して水を加へて稀薄にしてはなりません。

第七、老人、小兒、妊婦などを湯治に連れて行つた時は能く注意して入浴を加減しないと却つて病勢を募らせたり又は他の害を招くことがあります。第八、湯治中は過食、暴飲過房其他の不衛生あるべからざることは、是は説明する迄もありませぬ。その他適當な醫士に依頼して常に其指揮を受けて誤のない様にしなければ折角の湯治も何の甲斐なきことになりませぬ。

おはなし

筑紫の媼

四、蝦 蟄

「次郎さん早くおいで、眞黒な汚い蝦蟇が居るよ面白いから殺してやらうと」太郎は棒をもち次郎は石をもつて殺そうとして居るところへ横手の方から車を曳いた驢馬が来てあぶなく蝦蟇を踏み殺しそよになつたところが、驢馬は驚いてこれをよけて通りました。太郎は之を見て棒を投げ捨て、次郎に、「われ／＼はとんだ事をするところだつたのね、驢馬はわれ／＼よりも情深いぢやありませんか」と言つて殺す事をやめてしまひました。

五、狼と羊

眞白な毛をもつてよく太つた子羊が川で水を飲んで居ると、狼が来て、「貴様はいつでも水を濁して太い奴だ、食つてしまふぞ」ととなりますから、羊は大きに恐縮して「狼閣下そんな無慈悲な事を仰つてはいけません、私はいつでもあなた所よりも遠方で飲むのです」「ナニ無慈悲な事！、お前の話で見るとおれは無慈悲な者だな、よし、水を飲む事は許そうと思つたが其侮辱は堪忍がでない、食つてしまふ」

自然界と保育

畔柳 銀子

梅の花はゆかしき香をはなちて鶯をむかへ菜の花は黄金色の毛氈をしいて白蝶を迎ふる用意をなしつゝある此頃もう日あたりのよい處にはなつかしくすみれのひとと二もと謙遜らしく頭低くしかも色よく咲きそめました。

それからわれ等の造るべき世となりぬと何れもあたたき太陽の光に元氣つけられて芽の中にていろ／＼の花が用意をして居ります。

神の如き幼児はそれよりもおだやかに最も親切に守り教ふる自然の懐に抱かれやうとして居ります。幼な兒には人爵貧富なしや高きあたりより賤が伏屋にすまへるものまで人工の美しと見ゆる庭に兒女と乳母にかしづかれ散歩するあたりより父親は麥畑耕し母親は春の田にかへす／＼も打見やられて摘む花のくさ／＼にたのしめる兒何れも花は唯一の恩物となりましやう。

此恩物を如何に取扱ふべきかわが國にては小供が花を見るとあゝ奇麗だといひ直ぐにそれを採り暫くすると何となしすて中には採みちらすが如き惜酷なる事をなし平氣なれども米國に於ては先天的のやうで花を大切にしあゝ奇麗と側らに走りよりながめてそのまゝ分るゝといふ風にて決して採るなどの事なしました採らんとするものあれば誠むるに「この花は汝等の如く成長しつゝあるものなり折角大きくなつて美しく汝等を喜ばせんとしつゝある花を可憐そうにと」幼児等に比して教ふるといふ。

此教ふる親も幼児の前にては花はとらぬなるべしこれきゝて曰れも此花をめぐみしと思ふに幼児等のする事ある前に其花の木の下につれては誠めたるに短日月なりしも此蕾は誰さんわれは何子さん大きく明日はどんなになりましやう明けては先生花の處へゆきましやうと樂しむやうになりゆきしが此春も忘れず花をたのしみくるゝや否やとはこ

れよりの實驗なり

また種子蒔きて水をかけ肥料をやりて培養せしむる事の兒等をたのしましめまた天然物を大切に思ふの念を養はしむるによき事は皆人の己に知らるゝ處今更ながら感せられぬ若し何時の間にか犬など入りて若葉の芽を踏める時など一大事と走せ來りて何事かと思ふばかりに報告するなどその一つのしるしなるべし、

バッタコホロギ、の如きものも友として遊ばしむることその足頭胸腹翅など一通り氣をつけさせてのちバッタの御家へ歸しておやりなさい皆さんも父さんや母さんの處へお歸りにしましやうと歸る時にはなたしめまた室内に入る時にはその時の詞として幼兒と同じ心にならしめいたはらしむればわの無慘なる翅をちぎり手足をとりする如き事は見ず。

花をもみちらすよりは、虫けらの手足をとりする如き有様よりはこれを愛しいたはるの良き風なる

事はたれ人も知る處、いかでたゞ花をとりてはいけません虫をおさへてはいけませんの消極的抽なる取扱ひをなす人はなからんも……兒等をして將來此複雑なる世の中に立ち、生存競争ますゝはげしかるべき時代の活動をなさしむるにつけ、その間に兒等の生涯如何なる處にありてもはなれぬ此偉大崇高なるしかも教るにおだやかに親切なる自然界の天恵物を以て心をなぐさめ、清くして國家の大事業にたずさはらせ、秩序正しき自然物によりて養はれたる觀察力を以て、四周を觀察し身を處し事に敏にして國家の幸福を來すべき源泉たらしめ得べくば、此自然界を利用したる最上となるべしこの利用をなすは保育者なり幼な兒に最も多く接するものは自然物なり、これを以て幼な兒の心の中に植ふる種子はそも如何なる花如何なる實を結ぶべきか貴きこの恩物の取扱ひにつきて氣づかれたるふし、此紙上に多く紹介せられ御互に兒等の爲めにはかりたき事とこそ

割烹

石井泰次郎

鉢肴

鯉けんちん
蓮根玉あげ
かつら生姜

◎かれのいけんちんの拵方

鯉は、鱗をふき、頭を去り、次に背の真中を頭より尾の所まで庖丁刃を入れ、其所よりひれの方に向けて、成るべく骨に肉を付けぬやう、ひれより四五分手前の所まで、そぐやうに切る、左右ともかくの如く切り、次に腹の方も、背の方と同じく切り、背の方の肉をもたげて置いて、骨を切り去るべし、然るときは、骨をぬきたる片身づゝのものとなるなり、それをざつと洗ひ、暫く醬油に浸し置くべし、

其間に、魚の腹へ詰むるものを作る、

先づ豆腐小一つ「七寸位の鯉一尾に對してなり」

を、くづして鍋に入れ水を加へて火にかける時は煮るに隨ひて、豆腐は一とかたまりづゝになり、

水はすむなり、其水のすみたる時をみて、毛ふる

ひなどに移し入れ、水氣を切り、再び鍋に入れ、

鯉煮汁、醬油、砂糖等を加へて煮る、

又、にんじんを皮をむき、太き所三四寸ばかりを

細く線に切り、湯煮し、

木耳を湯で、洗ひ、石づきのかたき所を去り、

いく枚も重ねて小口より細く切り、

銀杏を、固き殻をくだきて中の實を出し湯煮して

薄皮をむき取り、三つ四つに切り、

右のにんじん、木耳、銀杏等を、共に鍋に入れ、

煮汁、醬油、砂糖にて煮て、前の豆腐を合せ、汁

を切り、冷して、鶏卵一箇を入れて、よく混ぜ

合し、

醬油に浸したるかれいを取出し、背肉と腹肉との

間、即ち骨を取りたるあとへ、右の煮たるものを

詰め込み、竹の皮を下に置き、其上へつめたる口

の方を下にしてのせ、「ひれを上立つやうにするなり」竹の皮共に、蒸籠の中に入れて湯鍋の上に

かけ、強火にて十五分間蒸すなり、取り出して、竹の皮を除き、其ま、皿に盛り、蓮の玉あげ、生姜等を付合して出すなり、

◎蓮根玉あげの拵方、

よき蓮根一節の皮をむき、湯鍋の中に入れて、五分間ばかり、生ゆでに湯煮し、おろし金にてすりおろしすり、ばちに入れてよくすり、かたくり粉五匁ばかり加へてすりませ、

次に、鍋にごまの油を容れて火にかけ、油より、烟の立ちのぼるを度として、すりたる蓮根を、小匙にて一とすくひづゝすくひ入れて、狐色になる位に揚げ、西洋紙の上にとり上げて、油を切る、皆揚りしならば、別の鍋に、みりん酒と醬油とを同量に入れて、よく煮つめ、汁のとろくとなりたる中へ、あげたる蓮根を入れ、手早くかきまわしつゝと煮ておろすなり、

◎かつら生姜

生姜の少し大きなるを取り、上皮をひとかわむき

次にくるくると成るべく長く丸むきになし、むきたるを又端より巻きて、小口より成るべく細く切り、水に取り入るゝ時はくるくると巻けて、かつらの如き故、かつら生姜といふなり、水より出して、皿に付け合するなり。

おはなし

筑紫の媼

五、キヤベツと鍋

鶴吉と龜藏の二人の職工が野菜畑の傍を通つて居ると、鶴吉が「ちよつと御覽、立派なキヤベツぢやないが、私はこんな大きいのを見た事がない」と云ふと、高慢な龜藏は「なにそんなものが珍らしいものか、僕はあそこにあるあ、の家のキヤベツを見た事がある」と言ひます。鶴吉は「それは大きな鍋をこしらへた、大きいで思ひ出したが私はいつか村の小學校位の大きな鍋をこしらへた事があるですよ」龜藏「うんそうかね、してそんな大きな鍋をこしらへて何にするつもりかね」鶴吉お前さんのキヤベツを煮る爲



婦人と親族法

太田英隆

第六章 後見

凡そ人間であつて自分で自分を處理し、自分で防衛することの出来ない者には、法律はこれに特別の保護を與へるのであります、それでは、どんな人を法律が守るのであるかと云ひますれば、年の幼弱な者又は精神に異状のあるやうな人を云ふのであります。さうして、年の足らない者即ち未成年者はすべてこの後見によつて法律の保護を受けるものと云ふものではありません。前にも申しましたやうに其家に父か母のある時は其親權によつて保護をうけるので、後見を受けるのはありません。未成年者が後見で守られるのは、其家に親權

を行ふ者がないとき、それから親權者が管理權を持つてゐないときに限るのです。

三十八

後見は未成年者及び、禁治産者（心神喪失の常況に在る者）を守る爲めに、公益上から定められた一の職務ではありませんが、それだからとてすぐに公の職務だと云ふことは出来ません。なぜかならば國家と云ふものは、これが規定は設けはするが、自分が其事務に干渉せないものであつて、後見の機關は私のものであつて、國家の機關でないからであります。であります。後見の機關である後見人、後見監督人又は親族會員となる義務は、國家に對する公法上の義務であります。それで、この役目に選ばれた者は、正當の事柄がない以上はこれを斷りすることは出来ません。

後見の職務は無償で行ふのが原則であります。それで、職務を行つたて、どんなに長い間、どんなに煩雜な仕事をしたからと云つても、報酬を呉れと云ふことは出来ません。又自分の子の世話を

して金呉れと云ふものもありませんが、廣い世の中にはどんな人がないとも限らないから、法律はまさかの時を心配しておいたのです。唯後見人に對しては、後見された人の財産中から相當の報酬を與ふる場合もあります、極く稀でありまして、これとて、後見人が當り前に取つてもよいと云ふ權利ではありません。

後見のどんなものかを述べましたから、左に今迄云つたことを一言に縮めておいて、追々本論に入りませう。

▲**定義** 後見とは、親權を脱した未成年者又は禁治産者の身体財産を監護管理する爲め、法律によつて能力のある人に命ぜられた任務であります。

第一節 後見の開始

後見はどんなときに開まるかと云ひますと左の

二つの場合に限ります

第一 未成年者に親權を行ふ者がなるとき、又は

親權を行ふ者が管理權を有せない時

第二 **禁治産の云ひ渡し**のあつたとき
(一)前に親權の性質のときに述べたやうに、未成年

者は親權によりて保護を受け、また後見によりても保護を受けるのでありますが、同時に兩者の保護を受けるのではありません。未成年の子が其家に於て、父か又母を有するときは親權によつて守られ、若し其父及び母が知れないとき、死亡したとき、父や母が最初から子の家にゐないとき、其家を去つた時、其他父及び母が家にあつても共に親權を行ふことの出来ないときに於てのみ、後見の開始かあるのです、又親權を行ふ者が管理權を有せないときにも後見は始まります。

(二)心神喪失の常況にある者が、禁治産者となるには裁判所の宣告を受け、事は既に述べた通りであります。さうしてこの宣告を受けた者はさう普通の人で有りませんから、何事をするにも大切な事は一人で出来ません、もし一人でしたらそれは無効となるのです。それで後見に附せられるので

す。

第二節 後見の機關

流車はよく走りませんが、機關がなくては一寸も動かせません。日本の國はちやんとよく治まつてゐますが、これには國家の機關と云ふ者があつてよく治まるのです。流車が機關の爲めに動いたり國家が機關の爲めに政を行ふやうに、後見もやつぱり機關があるから、年の足らない人や、精神の遠ふ人を守ることが出来るのです。後見の機關は後見人、後見監督人、親族會の三つがありまして、後見人の役は、直接能力の無い者を守るのです。而して後見監督人は後見の役を監督するものでして、仲々大切な役目です。若し後見人の勝手にしておくと、後見人は無能力者相手を幸ひに、その人の財産を取つたり、自分の都合のよいことをしたりします。これは世の中によくある例として芝居や小説にも、後見人が人の財産を取らうとして、大變なことになるのは、皆さんの御存じのこととせう。さうして、親族會は、相談の方法によ

つて、後見人の仕事を指揮したり、監督したりするものであつて、これも仲々大切な役目です。もしこれがないと、後見人と監督人とが心を合して、いろんな悪事をやります。兎角世の中は金ですから、若い人や精神の亂れた人は、注意に注意を重ねて保護せねばなりません。この邊を心配して親族會を設けたのです。親族會は澤山の人が相談するのですから、一人や二人位慾張りの悪い人があつても、自由にさせないのです。こうなると法律は仲々親切なものでせう。皆さんのよくお解りになる爲めに、この三つを例を以て今一度申しますれば、國家に例えると、後見人は事務官で、後見監督人は監督長官で、親族會は丁度議會とでも云つたやうなものであります。

こんな事柄は、家を持つて居る人の心得ておくべきものでありますから、これから少しく三つにづきて述べませう。それから、親族法は、後見でお終ひでありますから、本章で私の今迄述べました婦人と親族法も終ります。

四つ身被布

岡本ちか子

四つ身被布は、大抵四五才より十才位まで、着られまして、用布は

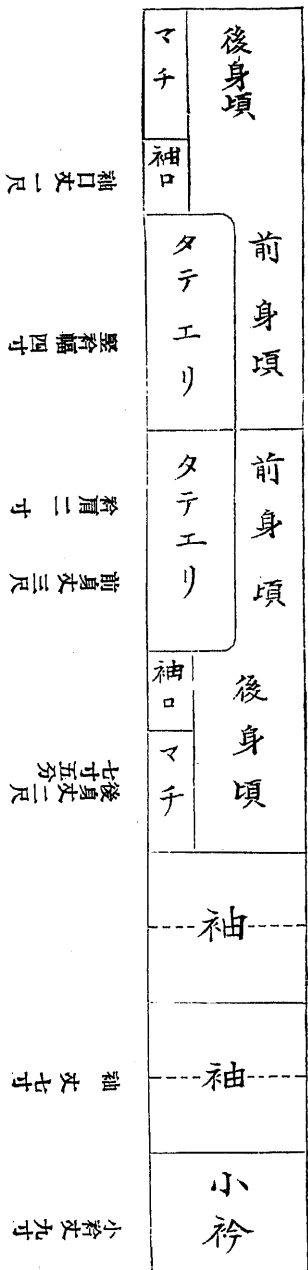
並幅ならば一丈八九尺(筒袖は一丈四五尺)

大幅ならば九尺より一丈位(筒袖は七尺五寸より)

入用で御座います、今左に並幅物と、二尺幅物との裁ち方を申上ます。

並幅長さ一丈五尺二寸の布を以て四つ身筒袖被布の裁ち方

裁ち方圖



二尺幅長さ九尺二寸の布を以て四つ身被布裁ち方

前身頃	全	前身頃	袖
	タテエリ	後身頃	
前身頃	小衿	後身頃	袖
	マチ		
袖	全	袖	袖

ウタテ
幅五
尺二寸二分

小衿丸
前後長三尺一寸

後身丸
二寸五分

袖
幅八寸八分

袖
幅一尺六寸

普通仕立上寸法

袖丈 一尺五寸以上
筒袖六寸五分

袖口 四寸六分
筒袖三寸五分

身丈 二尺
二寸

身入つ 下二つばい
上五六分

まち幅 下二つばい
上三分狭くす

たて料幅 三寸五分

袖幅 七寸五分より八寸
筒袖六寸五分より八寸

袖附 四寸五分より五寸

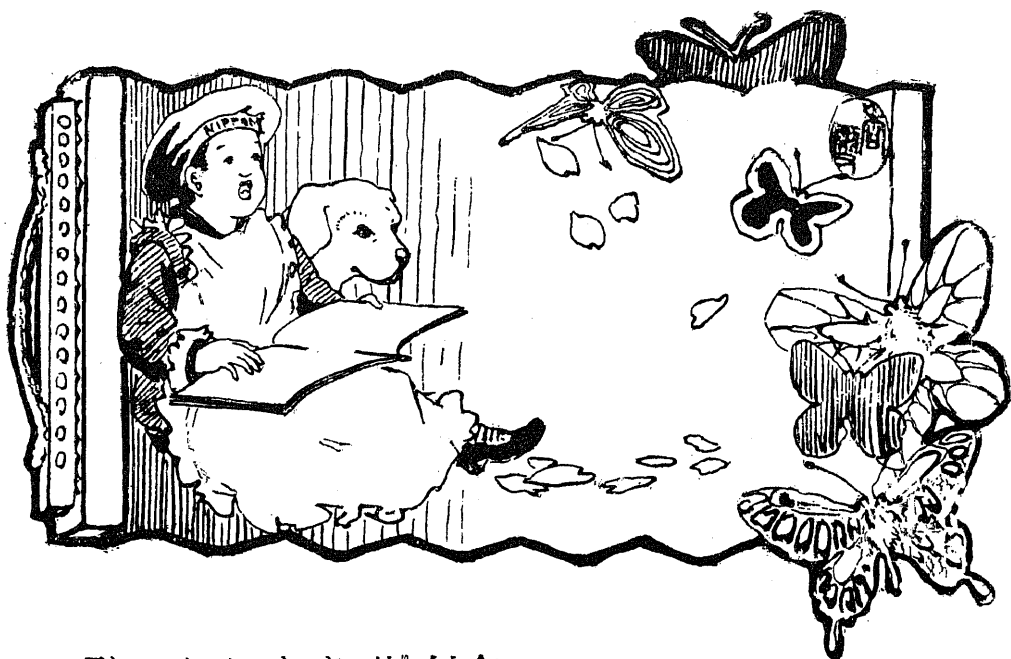
後幅 六寸五分
七寸

前下り 三寸五分より四寸

りたて着下 三寸五分

小衿丈 三寸五分

縫ひ方は前號に申しました一つ身、三つ身など大抵おなじで御座いますから略しました。



パンを粗末にしてはなり
ません

硯山人

これはチロル地方の昔話です、
今でこそインスブルクの山村は不毛の地ですが大
古は中々以て青々とした田畑やこんもりとした山
林が茂つて居て大層肥沃な土地だったのです。そ
れがどうしてこんな荒蕪な地になりましたかと申
しますに、それは大分昔のことでしたが、この地
にフットと申します女王様がいraftしやいまし
た。
この女王様は大層亂暴な御方でした。身の丈は六
尺以上もあつたと云ふことです。

或日のとこの女王様の大事なく、皇太子様が外からワ〜泣いて歸つてまゐりました。それは侍従の人々がとめるもさかないで、檜の木へ登りましたところが、うん悪くそのてつべんから沼の中にまつさかさまに落ちましたので、御付の人々がやうやくお助け致したので、今泥だらけになつて御殿へ歸つてきた處なのです。

この皇太子様も女王様にまけない亂暴な方で。ことしまだ八ツの子供ですのに大人の云ふことをさかないでと〜沼の中になつてこちる様な終末になつたのです。然しまあたすかつて幸でした。

さて皇太子が泥だらけになつてきたのを見ました女王様は。

「ラヤ〜、可愛そうによ〜、泣かなくてもいいよ、今にかあさんがもつとよい上衣をこしらいてあげるから」とすかしながら、侍女にいゝつけましてそこにあつたパンで身体中の泥をふかせました。

皆様も御存じの通りパンはその日〜の命をつなぐ大事な貴い品物です決して身体泥などふく様な物では御座いません。

天に見ていらつしやる神様はこの女王様の亂暴はまる有様を御覽になり、大層御立腹をばしました。そこで今迄よかつた御天氣が、急に薄暗くなりなりましたと思ふ間もなく、雷様がゴロ〜となつて参ります、雨はザア〜とまるで盆を傾ける様に降つて参りました其中に大層な地なりがして女王様の御殿から大きな火柱が二本ニヨッキと立ち上りました。

やがて雨ははれましたが宮殿はその跡も形もなくなりなりました。それから云ふものはインスブルグには、いくら御麥をまいても米をまいても實のらず、住んでいる人も一人へり二人へり、今では見るも恐ろしい、さむしい山の間の荒地となりはてしましました。

皆様なんと恐しい御話ではありませんかですか

ら決して食物を粗末になさつてはなりませんよ。

(をばり)

不思議なおみやげ

と よ 子

むかし〜ベニスと云ふ所に一人の商人がありまして此人に太郎と云ふ一人の腕白な子息が居りました。或時お父さんは商ひで遠くの國へ行かねばなりませんので旅のお支度をして居らつしやる所へ太郎が遣つて來まして、いつもに似氣なく「お父さんいつていらつしやい」と申したのでお父さんはアイヨ、歸りにはおみやげを買つて來て上げ様かな。何がほしい？」とお云ひ掛けになりましたから太郎は喜んで「お父さん何うか日本一の不思議なおみやげを頂戴！」と申しました。

「ヨシ〜日本一所か世界一の不思議なおみやげを買つて來て上げ様、けれどお父さんのお留守中

はおとなしく母様の言ふことをよく聞かなければ上られないよと云つて、お出掛けになりました。太郎はお父さんのお留守におとなしくして居ましたらうか世界一の不思議なものは見付かりましたかしら。お父さんはだん〜行つて透〜或町に來ました。御用もあらかた濟んだので、さて是からおみやげの不思議なものを探したいものだと思つた。彼方此方眺めながら行きますと向ふから一人のお爺さんが來ました。お父さんは

「モシ〜お爺さん私は子供に世界一の不思議なものをおみやげに買つて居つて遣りたいのですが何かよいものはありますまいか」と尋ねますと「それはよいものがある、私と一所にかいでと云ふので着いて行きますと町はづれの或一軒の家に入りました。家の中上つて色々話をして扱て不思議なものを早く見せて下さいと云ふとお爺さんは

「あゝ丁度お晝になつたから御馳走をし様」と大き

な鍋にお醬油やら砂糖やら入れて頓がて煮立つた時に窓を明けて庭に遊んで居た鷺鳥を呼びました。鷺鳥はガガと云ひながら入つて來ました。スルトお爺さんはお商人の方を見ながら

「是が世界一の不思議なものだよ」と云ひますから商人は承知しませぬ、

「お爺さん、是は鷺鳥でせう此様ものは不思議でも何でもありませんと云ふとお爺さんは

「所が不思議なんだから見てお居でと云ひながら鷺鳥に向つて

「サア此中にお入り！」と云ひますと是は不思議鷺鳥は一人でお鍋の中へ入りましたので流石の商人も感心して

「何とまわ不思議な鷺鳥があるものだ」と思つて居りました。そこでお爺さんは

「サア、商人さん、お腹が飢つたらう、早くお上り、私も食へやう併し斷つて置くがね、骨を食べてはいけないよ、みんな此處へ丁寧に出してお呉

れと、云ふので先づ一々食べて見ますと何とも云へないおいしい肉で、それを頬ぺたが落ちそうにおいしいものでした。遂に皆食べてしまつて骨がすつかり集まりましたのでお爺さんは、骨に向つて恰で生きたものに云ふ様に

「サアモ、い、から庭へ行つてお遊び！」と云ひますと今迄皿の上に積んであつた骨がむくむくと動くかと思つるとその通りの鷺鳥になつて机の上を飛び居りて庭へ行つてしまいました。商人は此有様を見て驚いたの、何のつて、大變な驚き方で

「ヤツ、死んだ鷺鳥が生きた。是は不思議だ世界一の不思議だ」と我知らず叫びました。ソコで商人は此鳥を買つて歸つて來ました。家へ入ると太郎が飛び出して

「お父さんお歸り、とお辭義をするお父さんはニコとして

「ハイ只今お留守中はおとなしかつたかね、お約束の御ほうびを持つて來たよ」とおしやつて例の鷺

鳥を出しました。處が太郎は不平で、

「お父さん世界一の不思議つて是ですか。是は鷺鳥じやありませんか。つまらないなあ」と云ふとお父さんは「所が其が不思議なんだから面白いよ」と云ひながらお母さんや番頭や子僧や下女やらを皆呼び集めてお爺さんの爲た通り鷺鳥を以て御馳走をしました、そして骨を出させて

「サアモーい、から庭へ行つてお遊びと云ふと鷺鳥は鷺鳥の骨はムク」と起き上つて元の通りとなり庭へ行つてしまいましたので、太郎は大悦び是は面白い」と云つて躍つて悦んで居ました。此様にお父さんは約束の通りよいおみやげを下さいたしましたが太郎はお父さんのお留守の時は誠に腕白で誰の云ふことも聞かず、仕方がなかつたのです。

丁度其翌日お父さんがまたお留守になつたので太郎はソロ／＼腕白を始めました。先づ近所の仲間

の暴れものを五六人連れて來まして臺所から大鍋

を持て來て、お汗をこしらへて
「オイみんな／＼見ておいで僕の鷺鳥はネ入レと云ふと此鍋の中へ一人で入るよ、そして煮へたら食べてそれから後の骨を揃へて、モーイ、ヨと云ふとチャンと元の通りになるのだよ」と云ひますので大勢の子供は「ソレは面白いな、早くおしよ」と一生懸命見て居ました、頓がて太郎は鷺鳥を呼んで來てお父さんのした通り

「サア此中にお入り」と云ひましたが鷺鳥は一向入りません、太郎はヤツキになつて早くお入り」と云ひましたが怪げんな顔をして何處を風を吹くかと云ふ風です、かんしやく持ちの太郎は忽ち腹を立て、

「此奴入らないか」と云ひながら鍋の蓋で力一杯鷺鳥の背中を打ちました。が是は不思議鍋蓋はピタリと鷺鳥の背中に吸い付いてしまつて放れませんそして太郎の手も鍋蓋に吸い付いたがり放れませんので、鷺鳥がガ、／＼と云ひながら臺所から逃

げ出すと太郎は「わーあゝゝ」と云ひながら引張られて行きます。スルト見て居た一人の子供が飛び出して太郎の帯際とつて引き戻そうとしました。が、是も吸い付いてしまつて放れ、ばこそ、太郎と一所に矢張りあゝと云ひながら外へ引づられて行きました。是は大變だと思つて外の子ども一どきに掛りましたが是もいけません。皆吸い付いてしまつてまるで芋虫コロコロか子を取ろく様の様に珠々つながりになつてわゝゝ泣きながら引っぱられて行きました。此騒ぎでお母さんも番頭も子僧も出て来ましたが、つかまらうものなら誰れでも彼れでも皆くつついてしまひますので困つて居ましたが、鷺鳥は平氣で大勢の子供達を引っぱつて臺所からお庭、お庭から往來へ出てだん々々町の方へ行きますので町では大さわぎ「ヤア〜面白〜」と往來の人はやして居ますスルト向ふから歸つて来たのはお父さんです。お父さんは此様を見て驚いて「是は一体何うしたん

だ」と云ひながら鷺鳥の首を捕へると皆のくつ付いて居たのがばら〜と放れました。ソレで遂々太郎の腕白がお父さんに知れて太郎は大層しかられましたので是からはおとなしいよい子になりましたとさ。めでたし〜

おはなし

筑紫の媼

七、狐と山羊

或日一疋の狐が井戸に落ちて出られないで困つて居ると、丁度通り合した山羊が見付け出して「大將、井戸の水は甘いかね」ヤ結構だよ早く来て呑まないか」山羊は深い考もなく飛びこむと、狐は之を踏臺にして上に飛び上り「さよならありがたうそはあんまりい、所ぢやないよ風をひきたまふな」と言ひ捨て、行つてしまひました。何と憎らしい狐ぢやありませんか、悪者には用心しなればなりません。

八、御醫者様

昔上手な名高い御醫者がありました。或晩一人の老婦人が来まして「先生どうか息子の病氣をなほして、いたゞきたうござります」何病ですか」はい私の息子はどうも泥棒をして困りますからどうか根性のなほります様に願ます」御醫者様はしばらく考へて居りました。やがて或丸薬を與へてかへしました。あとで門人が「先生、泥棒につけるのは何といふ薬でござりますか」とたづねますと「あれか、あれは肺を乾かす薬であれを飲むといつても咳をするから人の家へ忍びこむ事ができない、其中に悪いくせもなほるだらう」

雜 錄

●教育家の宿泊所 愈博覽會も開けました地方の 育家は全國教育家大集會旁上京なさる方が嘶かしの多い事であらう。市内の各旅店は手ぐすね引いて待つて居つたのですから定めし込み合ふとでせう。帝國教育會は是非上京教育家の便を計つて男女各一ヶ所の宿泊所を設けました。本會々員の方々に御上京の上宿所に御困りの方は全所に行かれるのが利便で御座いませう。女子の爲めに設けられたのは本郷區追分町卅一番地全國教育家宿泊所です。男子のは下谷區眞島町一番地にあります。

●上野教育水族館 東市勸業博覽會場内不忍池畔外國館の東側に並び臺灣館の北方に相對して建築中なる教育水族館は高さが五十餘尺の洋風二階建の家屋にて近々落成に至ると云ふとてす同館は飯島博士岩川教授安東教授其他知名の學者及び教育家の指導によりて出來たものでして範を聖路易大博覽會内に建設されました水族館に取り之に新築の童匠を加へしも

のにて從來各地に設けられました。水族館の様に薄暗き建築にてはなく光線の分配が極めて巧妙なるを以て館内の各部若干分に光線がはるやうになつてをりますから之を觀覽するに少しも陰鬱の不快を感じる事なかるべく又飼養の水族にも從來他にて見るを得ざりし種々なる教育上學術上並びに實業上有益にて又趣味多き許多の水族を廣く蒐集網羅し、數萬圓の資金を投しあらゆる方法を盡して模範的完成を期しましたからいよゝ開館の曉に驚くべき美施を呈するものでありませう。

●日本の林間教育 近江八景の一と數へられました舊膳所の城側に、大林と稱する貧民集合の一部落があります。此部落の兒童は概ね學校に入る者がありません。滋賀縣の師範學校長は之を見て大に心配して、此等貧民兒童に教育を施さうと思つて、昨年来先づ教導を同地方の林間に設け、たのみて特殊の教育を貧民兒童に授けましたををです。そして夏は涼しき樹蔭に冬は暖かな日面に其場所を選んで毎日午后に一時間文授業しましたををです。其教科と云ふのは修身、國語、數學、唱歌の四つで

何れも口授であります。目下生徒が十數名で日々出席して温順に教授を受けて居るををです。處が初めは此等の兒童も一般貧民部落の兒童の様に放縱で、一寸も教場に集つて來ることがなかつたのを教員等が色々獎勵して、篤志家の寄附に係る繪畫や果物なども與へたりとして丁寧親切に扱つた爲めに出席者の數を漸く増加して今日の如になつたををです。其爲めに其地方の兒童の風儀は大増改まつて無駄に遊ぶより學ぶ方を喜ぶ様になり中には新聞を拾ひ讀みするのがある位になり其父兄達も此等の影響で漸く其惡風習を改める様になつたををです。是は誠によい思ひ付きで大に効果のあることであります。實際子守などに出る様なものに充分な教育を準備させるなどは云ふ可くして行はないものですから、此様な簡便法を用ひなければなりません。東京の様な所では各處の公園に日々集まり來る子守なども何うかして取り締つて遣る方法がありそをなものと云ひます。

●食後の心得方 食後は直に運動をするのがよいか、或は休息するのがよいかと云ふ問題に就て此程巴里の醫科大學で實驗

した結果に據ると、此事は年齢及健康に依つて差異があつて暖國では食後休息する方がよいをなす。けれど休息だからとて食後睡眠するのは胃液中の酸分を増加して男の活動力を鈍くすから強壯な人の外は止めるがよいをなす。よく睡眠後口に酸味が出るのは此證據だをなす。温帯の氣候では(日本など)普通に食後運動するのが可いをなす。併し之は一般健康の人のことで虚弱な人や神經質の人などは食後一時間位休息する方がよいをなす。それから是等温帯地方では食後の睡眠は多く殊に老人には非常な害をなす。それから寒帯地方に住んでる人は食後運動することが必要だをなす。

●船暈の原理及救治法。此程歸朝せられたる久保福岡大學教授の船暈に關する談を一部概説せんに船暈の從來胃の弱い人は胃がさし易いとしてありましたが之れ全くの誤解で其の研究によれば耳より起る事を發見せられたりと故に生來の聾者や嬰兒の如きは船暈に感じない蓋し耳の發育不完全なるが爲めである然らば其救治法は如何と云ふに目下の處では其誘因を止めるより外はなく夫れに二つの方法

がある一は神經の抵抗力を強くするので船に乗つたら甲板の上を一定の方向に運動して其習慣を付け或は絶へずブランコの種古をして置くがよい尙一ツは少量の麻醉劑を用ゐるが左もなくば酒を飲んで熟睡するので之れは神經を鈍らすので斯ふ云ふ場合には麻醉劑や酒がさめると船暈を新たに起すもの故又再び用ゐればならぬのである目下歐洲の大醫も船暈病は研究中なるも耳と至大の關係あることは動かざる説なりと云ふ尙詳しくは次號に再録することあるべし。

編輯記事

會員及讀者諸君の寄せられたる原稿は漸次閲讀の上適當と認められたものは誌上に載録致します。紙數に限りがありますので一時に載せられませんが中には多少遅れるのがあるかも知れませんが此邊は豫め御断り申して置きます。載録致した分には御約束の報酬を致します。本誌の内容に就て御注文のある方は御遠慮なく端書で御申越下さい。出来る丈は御満足の出来る

様に計らうほと存じますから、それから會員諸君の爲めになることで本會の事業にふさはしいことがあるならば出来る丈遣つて見たいと存じますから、是も御遠慮なく御氣付の事を御申越し下さる様願ひます。應募短歌の集まりが悪くて本號分のもあまり少のう御座いましたから、來月分と一所に致す積りで次號に回はしました。先月は印刷所が非常に繁忙を極めて遂に本誌の發行迄も約一週日程遅れる始末となつたのは誠に恐縮の次第です。殊に東京市内の會員諸君には其上に市内遞送に依頼した爲め尙一層遅れる様なことになつたのは何とも申譯が御座いません。以後は成る可く期日通りに出来させる積りですから左様御承知下さい。それから毎度申上ますが御轉居の節は直に御知らせ下さい。雜誌發送に困りますから、中には轉居の御知らせもなく、雜誌が來ないから會費は出さぬなどと云ふ大層御都合のよい方も御座いますので甚だ困ります。

供 子 と 人 婦

會費領収 自四十年三月二十日 報告

三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	九〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	三〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	七〇〇	三〇〇	六〇〇	金額	
四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	三九〇	四〇〇	年 月 日	
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	三月二十日	
武 田	林 村	下 村	波 佐 谷	吉 村	市 原	尾 田	小 出	斯 出	立 花	坂 本	千 賀	下 村	長 尾	白 井	青 山	三 須	澤 本	齋 藤	橋 本	土 保	清 水	中 島	市 原	磐 井	橋 本	高 原	山 形	
武 田	林 村	下 村	波 佐 谷	吉 村	市 原	尾 田	小 出	斯 出	立 花	坂 本	千 賀	下 村	長 尾	白 井	青 山	三 須	澤 本	齋 藤	橋 本	土 保	清 水	中 島	市 原	磐 井	橋 本	高 原	山 形	
孝	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	名

九〇〇	二〇〇	三〇〇	二〇〇	九〇〇	三〇〇	六〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	二〇〇	五〇〇	五〇〇	二〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	八〇〇	三〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三九四	三九三	四〇三	三九七	四〇一	三九一	四〇一	四〇一	四〇一	四〇一	四〇一	四〇一	四〇一	三九四	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三
三九二	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三	四〇三

安 田	寺 本	山 田	山 内	坂 之 鍋	眞 賀	大 賀	佐 賀	堀 越	後 藤	小 池	岡 田	藤 谷	高 田	小 山	伊 藤	山 越	頌 榮	山 田	高 橋	田 中	關 水	宮 地	森 岡	濱 岡	小 菅	富 岡	鳥 井	喜 多 見	佐 方	
眞 謹	み と 子	し う	作 太 郎	つ や	ふ 稱	外 濱	源 三 郎	き く の	み つ づ	み つ づ	い づ づ	万 壽	く わ	忍 宮	幼 雅 堂	や ま	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅	は 梅

る募を員會く廣

▲日本全國の幼き婦人、若き婦人及び其の父母や兄

さんには是非お讀みなさい

「日本の少女」は新に大日本高等女學會と連合したる本會の機關で、日本一の少女雜誌です。

「日本の少女」には會長下田歌子女史を初め、教育諸大家其他の爲になる講話が載ります。

「日本の少女」には作文、和歌、俳句、新體詩、圖畫等あらゆる文藝の秀逸が蒐つて居ます。

「日本の少女」にはお柳嘲、一口嘲、なぞ、繪さがし、繪直しなど面白い記事があります。

會長下田
歌子女史



一冊定價金拾貳錢
郵税金壹錢
壹月分會費前金拾錢
半年分會費前金五拾錢
一年分會費前金壹圓拾錢

「日本の少女」には花表紙、繪はがき、口繪、寫真版數十の挿繪があつて眼を喜ばせます。

「日本の少女」の交遊欄には、全國各地より來れる諸嬢の愉快なる通信が溢れて居ます。

「日本の少女」の質疑應答欄には、會員諸嬢の質疑の應答がありまして毎號之を歡迎します。

「日本の少女」は實に全國年少婦人の俱樂部にして、また才女展覽會であります。

▲本會規則書入用の方には (申込次第進) 小石川前安藤 大日本少女會
(呈します) 坂(區役所前)

女子高等師範學校教授東基吉先生編著 ○子ある家庭には必備の寶典

新案 育兒日記誌

(舶來上等紙摺)
洋裝美本 紙數凡そ四百五十頁
定價四十錢(總クロス) (全一冊)
特製五十錢(脊皮洋裝) (全一冊)
郵稅 各八錢

本書は東先生が從來我國に完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行果今回我國に完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行れたるものにして、**記入の方法の簡便**なるが**附録**温、齒牙、睡眠、發達の日時等より小兒の病氣、病室、營養、食物の成分一覽表等に至りては小兒科専門小原先生の指示と校閱とによりて懇切丁寧に記載せられ殊に育兒**實驗的育兒法**として又從來希に見らる良書といふ盡せりと**子どもある家庭**には是非とも備へざるべ**出産の祝品**書として本**適切文明的**なるべし

學習院女學部長 下田歌子女史新著

賜天覽

女子の修養

廿世紀女子教育の生粹 新家庭經營整理の寶鑑

洋裝 全一冊
頗ル美本
正價 七拾錢
金七拾錢
郵稅 八錢

フ レ ー ベ ル 會 編 纂

談話材料

全 壹 冊
定 價 參 拾 錢
郵 稅 貳 錢
近 刊

右は専ら女子高等師範學校附屬幼稚園で使用して居る童話を纂輯し之に斬新な新作童話を追加したものです。幼兒教育に熱心な母親方や幼稚園の先生方は此書に因りて幼兒に話す可き談話は何んな種類のものを何んな風に話すのかと云ふことが判りませう。

フ レ ー ベ ル 會 編 纂

幼稚園遊戯

全 壹 冊
定 價 參 拾 錢
郵 稅 貳 錢
近 刊

右は専ら女子高等師範學校附屬幼稚園で現在實行して居る所の遊戯を纂輯したものであります。世に遊戯書は澤山ありますが幼稚園特別のものはありません。本書は實に此類の書物の魁です。地方の幼稚園の方々は是非御研究を願ひます。前兩書共本會々員には特に二割引の實費を以て差上ります。(前號二割とせるは誤り)

發行所 フ レ ー ベ ル 會

月刊産科婦雑誌

購讀希望者は日本産科婦協會員となり一ケ年分
會費前金壹圓を納入せらるる時は毎月配本すべし

本誌創刊以來茲に八年時勢の趨向に鑑み一大刷新を加へて世に見えんとす産科婦
雑誌中實際問題に對し指導者たり顧問たり得るもの本誌を措きて他に求むべから
ず二段組十八行の植字は自ら内容の豊富を語り時論、原著及實驗、家庭衛生の諸欄
盡く讀むべし殊に時論及講義に至ては竊に本誌の特色として江湖に誇る所敢て大
方の一讀を待つ

(講義)は正科として産科婦學(産婆學)及び看護學を連載し遠隔の地に在る人尙
高等産科婦養成所の講筵に參するの思ひあらしむことに試験準備の諸婦
に對ては無二の師友と謂ふも強ち誇大にも非ざるべしと信ず。

東京市日本橋區濱町三丁目七番地
産科婦人科楠田病院内

發行所

日本産科婦協會

電話 浪花一六〇番
振替貯金口座第六四六九番

輓近の新好著

醫學博士 瀨川昌著先生校閱
 福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生
 長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生

合著 好評第五版發賣

小兒 劣等生救濟の原理及其方法

洋裝菊判形 全二冊
 正價 金六十錢
 郵税 金六錢

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救濟法たる實濟的攻究とに關し曾て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大旱に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產出物と見る可きものなり

好評嘖々たる遊戯書

廣島高等師範學校教師 吉田信太先生作曲
 廣島高等師範學校教師 藤藏先生作技
 好評七版發賣

國定 讀本 唱歌遊戯教授書

洋裝菊判色グロース
 無類の美本
 尋常科の部 全一冊
 正價金八拾錢 郵税拾錢
 高等科の部 全一冊
 正價金八拾錢 郵税拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新光明を發はさんとする教育家は

▲讀め……訓育上 體育上 効果を顯はさんとするの教育家は

▲讀め……戰後に於る勇健の國民を養成せんとする教育家は

發兌 東京電話本局 神田二八四番 樂園 弘道館

會 告

來ル四月廿一日(日曜日)午後一時女子高等師範學校附屬幼稚園ニ於テ左記ノ順序ニ依リ本會第十二回總集會開會致シ候ニ付萬障御繰リ合セ知友御誘引御出席相成度候也

- 一 開會ノ報告
- 一 會務ノ報告
- 一 役員改選
- 一 來賓演說
- 一 會員談話
- 一 餘興
- 一 園遊

茶菓

追て當日幼兒製作品並に保育參考品別室に陳列致置候に付開會の前後に御覽下され度尙會員諸君よりも多數御出品下され度御願申上候

明治四十年四月

フレーベル會

投稿懸賞募集

● 伽話 本誌半ヶ年分以上三ヶ年分
● 短歌 本誌四ヶ月分以上一ヶ年分

● 一般記事

選擇の上本誌に載録せるものは内規により原稿料を呈す

但し右賞品は受賞者の希望に依りて會費と差引き若しくは自ら取らずして其指定する人に本會より直接送ることを得

一 注意 短歌は隨意の用紙にて可なれど伽話及一般記事は一行廿二字詰にて半紙又は郵紙に書かれたし原稿は凡て返戻致しませ

ん此募集は期限を定めません毎月十日迄の分を其月に選評し後は翌月に回はし何時迄も引續いて行く積りです。宛名は本會へ直接御送り下さい。

開き封て應募原稿と標記すれば三十匁迄は郵税二錢で参ります。

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ね下さい。往復はがき又は通信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益と思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

一 册郵税共金拾一錢 ● 六册前金郵税共六拾錢

● 拾二册同金壹圓貳拾錢 ● 郵券代用一割増

生先了圓上井 士博學文 生先郎次哲上井 士博學文
 生先子歌田下 院習學女 生先郎次勇良元 士博學文
編生先治愨山西

畫挿繪口版色三の樂團庭家の伯畫折不村中
 摺紙等上來船頁餘十六百七數紙本美る類入函裝洋形判六四

賣發版再切賣忽版初評好大

錢五十稅郵 錢十九金價時 錢十三圓一價正

明治三十四年四月五日發行(每月一回五日發行)
 東京市神田區猿樂町二番地

發行所 辻本 邦 藏

東京市神田區錦町三ノ二五

女子高等師範學校内
 發行所 フニールベル會

等就庭順
 法結家庭組織
 婚庭制度
 律交禮
 式家衛
 具生教
 料行經
 理事濟
 汚洗裁
 點濯縫
 拔園
 花畜藝
 遊音茶
 戲樂道
 交工教
 通品育

視典寶の代末 庭家

然家庭問題は今に殘されたる社會問題として又戰捷後必
 づ家庭の要求する時代急需の聲に應ぜんとて世に出
 むべし家庭の著書敢て尠からずと雖も情
 の用意多時的苦物の零片を以て本書を編纂せられたれば
 家庭はこれに依るを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同
 家からざるを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同
 家からざるを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て

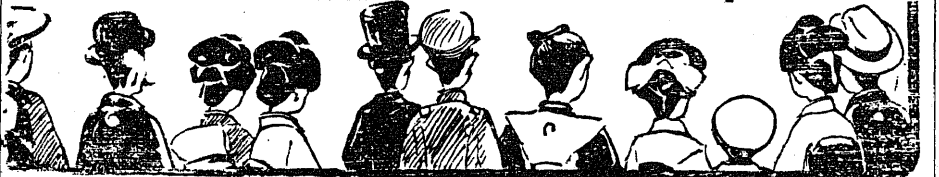
庭家

然家庭問題は今に殘されたる社會問題として又戰捷後必
 づ家庭の要求する時代急需の聲に應ぜんとて世に出
 むべし家庭の著書敢て尠からずと雖も情
 の用意多時的苦物の零片を以て本書を編纂せられたれば
 家庭はこれに依るを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同
 家からざるを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同
 家からざるを信す幸に世の流行的一夜作の駄編と同

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て

庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て
 庭の顧問 家庭に關して細大漏さず以て



館道弘 二町樂猿田神京東 所行發
 〇四八二局本話電